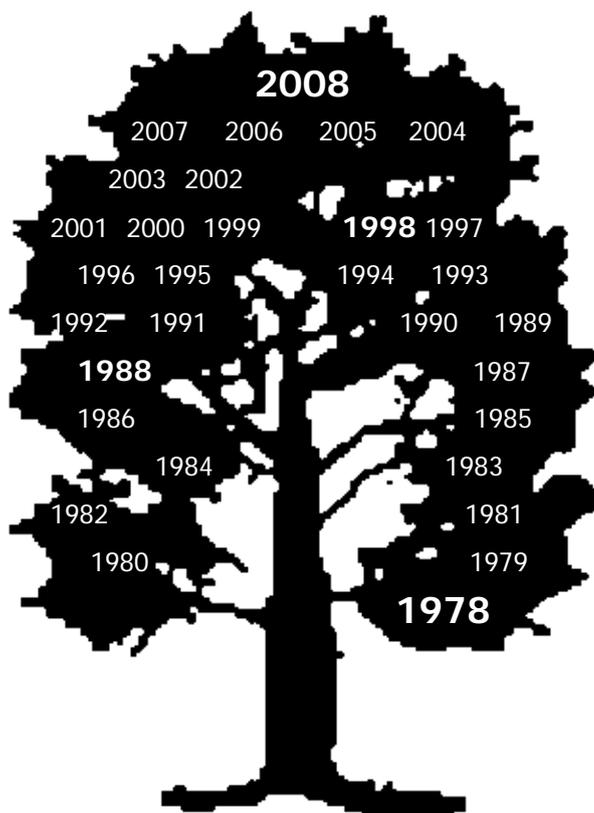




もとまち公民館 30周年記念誌

30にして立つ



2009年3月

国分寺市立もとまち公民館30周年記念事業実行委員会
国分寺市立もとまち公民館

もとまち公民館 30 周年記念誌『30にして立つ』刊行にあたって

30 周年記念誌編集部会

もとまち公民館は開館 30 周年を迎え、もとまち公民館 30 周年記念誌『30にして立つ』を発行しました。

編集部会では、まずどのような性格の記念誌にするのか話し合いを重ねました。その結果、開館までの道筋や、開館からの蓄積を大切にしながらも過去の回想に陥らず、現在を見つめ将来を展望することに重きをおこうという趣旨で企画編集をしました。現在の利用者や地域に結びつけるような内容になるよう努力をしたつもりです。編集作業の過程では、編集部員の中から「今、このもとまちの地域がこのように豊かな個性、能力を持った方々が集う場になっているのは、今まで 30 年にわたってもとまち公民館が蒔きつづけてこられた学びの種に理由があるのではないか。これからも蒔かれた種が、きれいな花を咲かせ、すばらしい果実を次々実らせてほしい。」という感想も聞かれ、記念誌の作成自体が現在の活動を見直す機会でもありました。

もとまち公民館は 1978 年に、市の南部地区に文化施設がほしいという市民の強い要望と熱心な運動が実って建設されました。その後、利用者、職員、運営審議会委員、講座の講師等々の努力、そして行政の深い理解と支えによって成長を続けてきました。多くの地域住民の学習の場、交流の場、楽しみの場として、地域づくりの拠点として、もとまち公民館は大きな役割を果たし、今日の日を迎えました。

30 周年の記念事業として、10 月 18 日、式典と座談会「わたしとふるさと国分寺市～公民館を核として」を 60 名参加のもとに開催しました。3 名の方が、もとまち界隈の今昔、学習から実践へ、地域で活動する意味についてそれぞれ発表した後、公民館の 30 年の歩みをふまえ、地域の核となる公民館の今後のあり方、これからの公民館に望むことを話しあいました。公民館のあり方は、若い世代から年を重ねた世代までの思いを凝縮したものであると感じました。内容はこの記念誌の中に収録しています。

「歴史は未来を照らす光である」といわれます。時代が変わり、社会状況が世界同時不況といった厳しい変化をし、社会教育も変貌しようとしています。そのような状況のなかで今、30 年におよぶもとまち公民館の蓄積に学ぶとともに、現在がまた未来を照らす歴史をつくれるよう、教育の立場でまちづくりに貢献できる公民館を力と知恵を合わせて育てていきたいと思えます。この記念誌が、その一助になることを願ってやみません。

記念誌発刊に際し、執筆くださった方をはじめ、資料などをお寄せくださった方、さまざまな形でご協力くださった方々に、編集部員一同ここに厚くお礼申し上げます。

(編集部員： 小峰義夫 清水真理子 平井愛子 横倉 節)

公民館へ大きな期待

国分寺市教育委員会委員長 内田 修

もとまち公民館30周年おめでとうございます。

もとまち公民館は昭和53年に市内4館目、初の住民参加による建設検討委員会を経て、建設・開館されました。ここに30周年の記念式典を催すことができますことを皆さんと共に祝いしたいと思います。本公民館を今日まで、地域の学習の場、地域活動の場として育て、支えてくださった多くの公民館運営審議会、利用者連絡会の方々、地域、利用者の皆さん、歴代の公民館長、職員の方々に心から感謝を申し上げます。

ここで学んだ皆さんの中には、その学習を自分のライフワークとされたり、自主グループを結成してさらに学習を深めるとか、信頼できる友人にめぐり合えたりなど様々な宝物や収穫を得た方も多いのではないのでしょうか。そのような方々にとっては、30周年の喜びも一入のものがあるかと推察します。

本公民館の30年の歴史を百瀬公民館長は、10年刻みに3期に分けて、第1期は個人の学習意欲を満たすことができた時代、第2期はグループ活動の充実、発展がなされた時代、第3期目の10年間はグループ間の連携が進んだ時代と捉えています。このことから着実に本公民館が充実発展してきていることが、わかります。また、独立館としての主体的な活動として、地域会議の開催など独自性を出す工夫、努力は高く評価されるころだと思えます。

地域の大事さが見直されている現代、これから公民館が果たす役割、期待は大きなものがあります。また課題もたくさんございます。教育委員会といたしましても、地域のみならずと共、一つ一つの課題を解決し、ご期待に応えられる公民館作りに努力してまいります。

もとまち公民館の益々の充実、発展を祈念してあいさついたします。

地域に支えられてますますの発展を

国分寺市長 星野信夫

もとまち公民館の開館 30 周年おめでとうございます。

もとまち公民館は、その建設にあたって、国分寺市で初めて市民参加の「南部地区図書館公民館建設検討委員会」が設置され、およそ 1 年間に 35 回の委員会で熱心に検討されました。昭和 53(1978)年 9 月の開館後も、市民の積極的な支えがあり、市内で最初の「公民館利用者連絡会」が発足しました。何事も市民と一緒に考えながら活動を続けているのがもとまち公民館の特徴といえるのではないのでしょうか。

国分寺市は、全国最大規模の武蔵国分寺が建立されたところであり、そこでの学習が日本で一番最初の社会教育だったのではないかと考えております。そこから数えると 1250 年を超える教育と文化の歴史があるまちといえるでしょう。

私は「共生・参加・創造」を市政の基本理念としています。それは公民館の目指すところと一致します。公民館には地域でともに生きるさまざまな市民が参加しています。学習と交流を通して新たな自己を創造し、その成果を活用することで、豊かな人間関係を育み、それが新たな地域社会を創造する原動力ともなっています。

昨年 4 月に厚生労働省が発表した全国市区町村別の平均寿命によれば、国分寺市民の平均寿命は高く、特に男性は 81.4 歳（2005 年）で、全国 4 位とのことです。地域に五館ある公民館で活発な活動が行われていることも長寿の一因ではないかと推察しております。

もとまち公民館・図書館は、来年度、耐震補強工事と合わせて 1 年遅れの大規模改修を実施します。より快適な施設で市民の学習活動がますます充実し、地域の拠点としてますます発展していくことを祈念いたしましてお祝いの挨拶といたします。

目次

もとまち公民館 30 周年記念誌刊行にあたって 30 周年記念誌編集部会

あいさつ

公民館へ大きな期待 教育委員長 内田 修
地域に支えられてますますの発展を 市長 星野信夫

I 歩み

1	開館～10年目	1978～1988年度	2
2	11年目～20年目	1989～1998年度	4
3	21年目～30年目	1999～2008年度	8
	99年度	定楽会について	定楽会 尾内昌弘 9
	00年度	ガーデニング入門から	みどりのゆびの会 吉田多美子 11
	01年度	行政改革と公民館	くらしの情報散歩道 小峰義夫 13
	02年度	楽しいペーパークラフトから	ペーパークラフトの会 高橋正一 15
	03年度	もとまちFM放送局	元職員 木場理恵 17
	04年度	写真の楽しさ	フォトクラブもとまち 蒲田博次 19
	05年度	広がる世界	国分寺バードカービングクラブ 岡田臣生 21
		公民館の2年を振り返って	前もとまち公民館館長 伊藤勘一 21
	06年度	子育てを支えるピラティスのひととき	ママティス 岩元加奈 23
		あすなる	もとまち盆栽会 多田寿成 23
	07年度	居心地のいい活動	素人料理クラブ 大野董子 25
	08年度	ファミリー運動会	27
	<参考>	もとまち公民館地域の年齢別構成推移	28

II 30周年記念行事

式典	30
座談会「私とふるさと国分寺市～公民館を核として」	31
事業写真から	40
利用者アンケートから	43

III 国分人 もとまち人

倒れている人がいたらすぐに助けましょう	南町 長崎 弘 46
避難小屋の思い出	東元町 佐々木 健 47

老いて元気に毎日 1 万歩	南町	田上嘉秋	47
三大ピラミッドの撮影に挑戦して心の殻を破る	東元町	伊藤邦明	48
国分寺第一小学校サッカーの概要	東元町	岡田光司	48
もとまち公民館と私	東元町	神原照子	49
小学校でのうどん作り	東元町	廣田 廣	49
四小ゲストティーチャー体験	東元町	牧野 勝	50
国分寺市プレイステーション		武藤陽子	50
開かれた教育委員会を願う	東元町	三浦郁子	51
妻に勧められて	楽友会	大山勝美	52
子どものころにもどりながら	東元町	宮川ひろ	52

IV 記 録

1	もとまち公民館運営審議会		
	(1) 公民館運営審議会答申など		54
	(2) 公民館運営審議会委員在職一覧		55
2	事業		
	(1) 主催事業一覧		56
	(2) 共催事業<地域で平和について考える集い>開催一覧		61
	(3) 開館 30 周年記念実行委員会		63

V 資 料

1	公民館体制をめぐって		
	(1) 公民館体制検討委員会		66
	(2) 国分寺市立公民館のあり方を考えるワークショップ		67
	(3) 「公民館のあり方」について教育委員会の基本的考え方		67
	(4) 国分寺市公民館条例等検討委員会		68
2	もとまち公民館関連資料		
	(1) もとまち公民館利用状況		69
	(2) もとまち公民館予算		70
	(3) 建物・備品修繕、備品等購入の記録		72
	(4) もとまち公民館職員在職一覧		74
	(5) もとまち公民館施設案内		75
	30 周年記念事業実行委員会委員		77
	編集後記		78

*もとまち公民館映画事業に関する記録は別冊で発行します

完成当時のもたち公民館・図書館

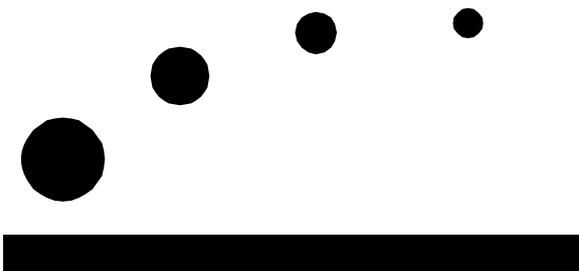
竣工目の1階ロビー
窓の外には児童遊園



1978年7月 竣工目



1978年9月 完成当時の全景



I 歩み

1. 開館～10年目
2. 11年目～20年目
3. 21年目～30年目

開館まで

1974(昭和49)年9月	「南部地区に図書館早期建設に関する請願」採択
1975(昭和50)年10月～12月	本多公民館の地方自治講座「図書館・公民館を考える」 が出張講座として東部公会堂で開催
1976(昭和51)年1月	「南部地区図書館・公民館づくりの会」発足
1976(昭和51)年12月	「住民参加による南部地区図書館及び公民館建設促進に 関する請願」採択
1977(昭和52)年2月	「南部地区図書館・公民館建設検討委員会」が初の住民 参加により発足

1. 開館～10年目 1978～1988

1978(昭和53)年度		館長 齊藤 靖道
月	できごと	
9	もとまち公民館開館。図書館と共催で開館記念行事を開催	
10	保育室開始	
10～1	利用者懇談会。合計7回開催。以後毎年2～3回開催	
10～11	連続講演会「公民館について」。後に「公民館を考える講座」と名称を変更	
11～1	映画会。市民・公民館共催の「シネマクラブ」と名称変更し、隔月に上映	
2	第1期もとまち公民館運営審議会発足（委員長 露口喜代子）	
1979(昭和54)年度		
5	「親子の広場」発足。夏にキャンプ、春秋にハイキング	
5～7	「幼児教育講座～幼児の生活をみつめなおす」	
7～12	「老人問題を考える講座」	
9	開館記念行事	
10～12	近・現代史講座開始。	
11	自主グループ援助で平和問題に関する講演会開始。後に「地域で平和について考える集い」と名称変更、現在も年1回開催	
11	「手作り文化教室」	
1980(昭和55)年度		
9	教育問題講演会開催	
2	第2期もとまち公民館運営審議会発足（委員長 国武礼子）	
1981(昭和56)年度		10月から館長 上田勝規
5	印刷講習会開催	
6	自主グループ援助のつどい開催。その後も年1回開催	
7～3	「講座・国分寺のまちづくりと農業」開始	
9	もとまち公民館利用者連絡会発足。利用者連絡会ニュース創刊号発行	
10～12	教育講座	
1982(昭和57)年度		
11	開館記念行事は「ふれあいまつり・もとまち」と名称変更して実施	
12	第2期もとまち公民館運営審議会「もとまち公民館の会場利用のあり方についての答申」	
2	第3期もとまち公民館運営審議会発足（委員長 国武礼子）	
1983(昭和58)年度		
4	公民館使用条例一部改正（改正料金表を当面本多のみに適用）	
5	4館合同「第1回公民館を考えるつどい」、後に「公民館のつどい」	
1984(昭和59)年度		
2	第3期もとまち公民館運営審議会提言「もとまち公民館の事業の今後のあり方について」	
2	第4期もとまち公民館運営審議会発足（委員長 永瀬健次郎）	

1985(昭和60)年度	
6~7	心と体の健康を考える講座
1986(昭和61)年度 館長 真崎 徳生	
1	第4期もとまち公民館運営審議会答申 「1.住民参加と公民館事業 2.婦人の学習と公民館保育」
1987(昭和62)年度	
4	第5期もとまち公民館運営審議会発足 (委員長 三浦郁子)
4	時事放談会開始
9	『公運審だより』創刊号発行
1988(昭和63)年度	
9	「第6回公民館のつどい」この回より市民の実行委員会と5公民館の共催
10~11	10周年記念行事 PART I, II 1. 記念式典 2. パネルディスカッション「もとまち公民館、これまでの10年とこれから」
11	第5期もとまち公民館運営審議会「もとまち公民館の施設・備品の改善に関する要望書」を教育委員会に提出
3	記念誌『国分寺市立もとまち公民館・図書館10年のあゆみ』発行

《国分寺市の動き》（公民館関係を中心に）

- 1978／ 6 市議会で公民館運営審議会委員定数 32 名となる（4館各 8名）
- 1980／ 2 第 19 回東京都公民館大会を国分寺市（二中・本多公民館）で開催
- 1981／ 7 国分寺市長、塩谷信雄から本多良雄へ
- 1983／ 4 本多公民館 20 周年
- 5 「第 1 回公民館を考えるつどい」開催（次年度から「公民館のつどい」）
- 6 本多公民館改築開館
- 1984／ 3 『国分寺市公民館 20 年のあゆみ』発行
- 5 声の公民館だより発行
- 11 国分寺市政施行 20 周年
- 12 国分寺市婦人行動計画検討協議会発足
- 1985／ 4 機構改革で教育委員会事務局は社会教育部と学校教育部の二部制に
- 1986／ 8 国分寺市行政改革検討委員会の答申が出される
- 1988／ 8 国分寺市で五館目となる国分寺市立並木公民館開館
- 1989／ 3 国分寺駅改装 駅ビル竣工

《日本・世界の動き》

- 1979／ 6 衆議院、国際人権規約批准承認
- 1980／ 7 日本、国連婦人差別撤廃条約を署名
- 1981／ 6 中央教育審議会答申「生涯教育について」
- 8 閣議、行財政改革大綱を決定
- 1987／ 4 国鉄分割・民営化
- 1988／ 7 文部省社会教育局が生涯学習局に。生涯学習体系への移行が進む
- 1989／ 1 昭和天皇没。平成と改元

2. 11年目～20年目 1989～1998

1989(平成1)年度	
月	できごと
4	もとまち公民館初めての職員異動。職員木場理恵、本多公民館へ。百瀬道子、光公民館から着任
4	第6期もとまち公民館運営審議会発足 (委員長 平井愛子)
10	公運審「もとまち公民館職員増員に関する要望書」を教育長に提出
12	公運審「もとまち公民館保育室予算の見積書通りの実現に関する要望書」を教育長に提出。平成2年度の保育賃金予算について要請
12～1	講座「製本技術を学ぼう」を開催
2	もとまち公民館敷地取得 1336.98㎡
2～3	生き方を考える講座開始 (後に女性問題講座)
1990(平成2)年度	
	館長 天野 稔
2～3	「初心者のための料理教室」を開催
3	第6期運営審議会答申「Ⅰ生涯学習社会におけるもとまち公民館の役割と住民主体の公民館運営 Ⅱ職員体制の課題」
1991(平成3)年度	
4	第7期もとまち公民館運営審議会発足 (委員長 鬼塚邦子)
2～3	写真教室開催
1992(平成4)年度	
4	職員菊池滉、光公民館へ。棟方貞夫、恋ヶ窪公民館から着任
11～3	土曜日の講座を開催。「講座・国際化と私」
2～3	水彩画スケッチ教室開催
1993(平成5)年度	
	館長 西川功明
4	第8期もとまち公民館運営審議会発足 (委員長 追谷恵子)
5	美術散歩開始
1～2	文学関係の講座として「初めての人の短歌教室」開講
2	公運審、もとまち公民館利用に関するアンケート調査実施
1994(平成6)年度	
4	公民館だよりをA4判にし『けやきの樹』と改称
4～6	夜間講座「夜の陶芸教室」を開催
5～7	女性文学講座開催
3	『もとまち公民館5年間のあゆみ(1989～93)』発行
1995(平成7)年度	
4	職員百瀬道子、本多公民館へ。保坂みどり、並木公民館から着任
4	第9期もとまち公民館運営審議会発足 (委員長 平山郁男)
4～6	オカリナ教室開催。
6～7	絵手紙入門教室開催
12	「第1回けやきの広場」開催。於・光公民館。
2	講演会を1回増やす。「フランスの世界戦略」

1996(平成8)年度	
8	夏休み中「夏期自習室」として会議室を開放
8	ロビーの、特に若者利用に関して公運審で意見交換
11	公運審五館交流会 もとまち公民館で。五館連絡会結成される
12	行政改革検討委員会の中問答申が出され、公運審は「国分寺市行政改革検討委員会中問答申に関する意見書」を、教育委員長宛に提出
3	初めての人のワープロ講座を開催
1997(平成9)年度	
4	図書館の組織改正にともない、公民館長は図書館長との兼任を解かれ、五館の公民館長は各館専任となる
4	第10期もとまち公民館運営審議会発足(委員長 芳賀希夫) 利用者懇談会で選出される利用者代表が4名から3名に。定例会の回数が、年間12回から9回に削減
4~6	公運審によるアンケート結果を生かして「初心者の英会話教室」開催
12	第2回けやきの広場、もとまち公民館において開催
1	公運審「国分寺市行政改革推進についての答申に関する要望書」を、教育委員長に提出
1~3	現代史講座を「外交」に絞って開催
2~3	ヘルシーライフ教室〈さわやか生活学〉開催
1998(平成10)年度	
	5月から館長 野口 武夫
5~6	「地方財政入門講座」開催
6~3	「幼い子のいる母親の教室」を「母と子の教室」に名称変更
10	もとまち児童館と共催で「こどもまつり」開催
10~12	「環境問題講座」開催
10	開館20周年記念行事 ①パネルディスカッション「もとまち公民館 いつでも夢を今20才」開催 ②写真展「写真でつづるもとまち公民館の20年」開催
3	開館20周年記念誌『いつでも夢を 今20才』発行

《国分寺市の動き》（公民館関係を中心に）

- 1989／ 4 国分寺市教育長、高橋俊司に
 1990／ 1 国分寺市の人口 10 万人を越す
 5 国分寺市初の地域センターとして内藤地域センター開館
 1991／ 3 『国分寺市公民館保育室の 20 年』 発刊
 8 国分寺市の公民館職員の 4 週 8 休制試行始まる
 1992／ 7 国分寺市の姉妹都市、新潟県真野町（現在の佐渡市）の公民館関係者
 10 名が国分寺に来て交流
 1993／ 4 すべての特別快速が国分寺駅に停車
 1993／ 6 国分寺市教育長、野村武郎に
 7 各館公運審 2 名、もとまち館長他、新潟県真野町を訪問
 1994／ 11 国分寺市教育センター開館
 1995／ 4 光公民館改築開館
 11 新潟県真野町公民館関係者、国分寺市を視察、交流
 1996／ 3 国分寺市生涯学習推進検討委員会から「生涯学習に関する報告書」が
 出される
 1996／ 7 国分寺市行政改革検討委員会設置
 1997／ 1 公運審五館連絡会、社会教育部長他と行革問題について話し合い
 2 五館公運審学習会。内容は「国分寺市の生涯学習計画策定にあたって」
 3 国分寺市生涯学習推進検討委員会から「生涯学習に関する報告書」
 出される
 6 「国分寺市生涯学習審議会」発足。公募の委員 2 名を含む
 7 国分寺市長、本多良雄から山崎眞秀へ
 7 「国分寺市行政改革大綱」が策定される
 1998／ 2 国分寺市生涯学習審議会が「国分寺市における生涯学習の推進につい
 て」答申
 3 東京都公民館連絡協議会委員部会の 18 公運審（もとまち公運審を含む）
 が「社会教育法の改悪につながる地方分権第二次勧告に断固反対」を
 表明
 3 「国分寺市行政改革実施計画」が市報で公表される
 6 国分寺市立もとまち児童館が開館
 1998／ 12 本町・南町地域センター開館

《日本・世界の動き》

- 1989／ 4 消費税導入（3%）
6 中国・天安門事件
11 東独・西独国境を開放。ベルリンの壁崩壊
- 1990／ 1 中央教育審議会「生涯学習の基盤整備について」答申
7 「生涯学習振興のための施策の推進体制等の整備に関する法律」施行
社会教育法一部改正
9 「子どもの権利条約」発効
- 1991／ 1 多国籍軍がイラク軍に攻撃開始。湾岸戦争勃発
6 雲仙普賢岳噴火。火砕流発生
12 ソビエト社会主義共和国連邦解体
- 1992／ 6 国連平和維持活動（PKO）法案衆議院で可決
9 学校五日制導入
- 1993／ 1 ビル・クリントン米大統領が就任
6 皇太子・小和田雅子結婚
8 細川首相を指名し、連立内閣発足
- 1994／ 6-8 各地で記録的猛暑
7 日本人初の女性宇宙飛行士、向井千秋がスペースシャトルで宇宙へ
10 作家大江健三郎にノーベル文学賞
- 1995／ 1 阪神淡路大震災発生。M7.2。死者6000人超
3 都内地下鉄内に猛毒ガスサリンがまかれ、死者、重軽傷者が多数
9 文部省は「社会教育法における民間営利社会教育事業者に関する解釈
について」都道府県教育長宛に通知
- 1996／ 4 国の生涯学習審議会答申「地域における生涯学習機会の充実について」
7 病原性大腸菌「O-157」の集団感染、全国に広がる
12 ペルーの首都リマの日本大使公邸襲撃
- 1997／ 4 消費税5%に引き上げ
5 神戸で少年による男児殺害事件
7 政府の「地方分権推進委員会第二次勧告」が、社会教育関係の法令基
準の廃止や緩和を打ち出す
8 ダイアナ元英皇太子妃が交通事故死
- 1998／ 2 長野オリンピック開催
6 サッカーワールドカップフランス大会開幕、日本初出場
12 「公民館の設置及び運営に関する基準」等が一部改正され、公民館の
館長、主事の専任規定が廃止された

3. 21年目～30年目 1999～2008

1999 (平成 11) 年度

(館長 野口 武夫)

もとまち公民館の主な動き

- 5月 第11期もとまち公民館運営審議会発足(委員長 塩川比登志)
- 3月 光・もとまち公民館長の異動に関して臨時公運審が開かれ、それぞれの館で、教育長に対して「館長人事に関する要望書」を提出

もとまち公民館の重点目標

- ・地域市民に愛される施設としてどうあるべきか、地域課題を掘り起こし、「もとまちらしさ」を活かすことを引き続き検討
- ・事業面では、子育て期の女性、高齢者、勤労者の事業を充実させるとともに、もとまち児童館と連携し青少年事業を充実させる

新しい講座・事業など

- 4～6月 美術講座 <初めての人の骨董入門>
- 5月 東京探訪
- 5～8月 定年後を楽しむ講座⇒自主グループ「定楽会」発足
- 6～7月 講座 コミュニケーション再考
- 9～2月 季節を楽しむ講座
- 10月 ふれあいまつりにおいて、公運審として地域との連携をはかるため、地元の花(鉢物)の販売を行った
- 11～12月 介護保険講座<地域から考える介護保険>

国分寺市の動き(公民館関係を中心に)

- 9月 公民館保育室運営規程制定
- 1月 「国分寺市生涯学習推進計画」の策定に向けて、市民の声を生かすため、生涯学習地域懇談会を開催
- 2月 「子ども110番の家」がスタート
- 2～3月 「国分寺市生涯学習推進計画」の策定に向けて、生涯学習に関心のある市民グループ・団体からのヒアリングを開催

日本・世界の動き

- 4月 石原慎太郎、都知事に就任
- 7月 「地方分権推進一括法」が国会で可決、翌年4月に社会教育法改正
- 8月 国家公務員倫理法が成立
- 9月 東海村の核燃料工場で臨界事故
- 12月 マカオ、中国に返還
- 1月 全国でミレニアムを祝う催し

今年の漢字

末

「定楽会」について

定楽会 尾内 昌弘

平成 11 年 5 月号「けやきの樹」に、もとまち公民館の「定年後を楽しむ講座」の案内が掲載された。全 6 回で国分寺市の歴史や史跡見学会などの他に「麺作り」もあるバラエティに富むものであった。定年適齢期を迎えた自分を振り返ってみると、国分寺市に住んで 10 年余りになるが自宅の周辺と駅以外はほとんど知らなかったのが、良い機会と思い参加の申し込みをした。

講座が終了すると「せっかく知り合いになったのにこのまま別れてしまうのは惜しい」という声が多く、今後も月に一度位の集まりを持とうと、講座で習った「麺作り」と「近郊めぐり」を隔月に行う「定楽会」を立ち上げた。

以来 7 年以上「定楽会」は続いている。スタート時からみると、辞めた方が何人か居られるし、また不幸にもお亡くなりになった方もある一方、会員の知り合いの方や、会の存在を知って入会を希望された方も居られ、現在も 30 数人の会員がいる。行事は毎年正月に「七福神めぐり」を行っているほか、近郊の散策や美術館や博物館の見学を行っている。個人ではなかなか行く気にならない場所に行くので、毎回多くの参加者がいる。また、隔月に行う公民館での料理会も蕎麦やうどん作りのほかに家庭料理にも挑戦している。有志が買い物に行き、この料理はだれが担当というような役割を事前に決めなくとも、皆自発的に動き、できあがった料理の味を批評しあったりしながら和気あいの食事会となる。

7 年以上も続いているのは、会員が皆おとなであるという、ひと言で片づければ簡単なことであるが、これまでの肩書きなどは捨て去り、素直に交流を楽しんでいるからであろう。これからは健康に注意し、散策を楽しみ、昼食のおかずぐらいは作れるように料理の腕をあげるような活動を続けていきたい。



セカンドライフ

地域で豊かに暮らす

定年後を地域で豊かに暮らすために、国分寺市もとまち公民館で開かれた講座の参加者が 1999 年 9 月、自主グループとしてスタートさせた。8 年目を迎えた現在も 60、70 歳代の男女 25 人で活動を続けている。

定楽会 (国分寺市)

「活動の柱は、(一)奇数月は同市内や都内の名所旧跡を巡り、偶数月にはそばやうどん打ち、肉じゃがなど家庭でできる「男の料理」を楽しんでいる。講師はおらず、メンバーが料理本から学びながら学ぶ。活動は、咲き乱れるソウパを楽しむ「定楽会」のメンバーたち(葛飾区堀切葛飾蒲田)で

ら「ソウパ」を調べながら実践を積み、レパートリーを増やしてきた。広田広会長(75)は「実は、妻が公民館の講座に申し込んだのがきっかけ。和気あいの活動が楽しめて続いている」と笑う。2003 年からはメンバー同士の交流だけでなく、同市内の交流だけでなく、同市内立第一小学校で年に一度、卒業を控えた 6 年生の児童にうどん作りを教えている。尾内昌弘さん(68)は「自分の住んでいるまちを知りながら、無理なく地域に役立てるのがいい」と話す。今月 7 日の例会では、葛飾区堀切葛飾蒲田に出かけた。8 人が参加し、道中でも道ばたに咲いていた珍

定楽会の活動が紹介された新聞記事(読売新聞 2007 年 6 月 7 日)

2000 (平成 12) 年度

(館長 竹内 悟)

もとまち公民館の主な動き

- 4月 館長の野口武夫、広報広聴課へ異動。竹内悟、広報広聴課から着任
- 5月 運営審議会に「社会が大きく変化する中で、今後、地域住民や利用者にとってより身近な施設となるためにもとまち公民館が果たす役割と課題」を諮問
- 8月 職員保坂みどり、児童福祉課へ異動。小林義夫、緑と水課から着任

もとまち公民館の重点目標

- ①主催事業の充実
- ②ふれあいまつりとこどもまつりを共催で実施します
- ③冷暖房改修工事を行い、備品の整備に努めます

新しい講座・事業など

- 4～6月 能・狂言入門
- 5～7月 ガーデニング入門⇒自主グループ「みどりのゆびの会」発足
- 6～7月 コミュニケーション入門
- 11～12月 やさしい年金講座

国分寺市の動き（公民館関係を中心に）

- 4月 「国分寺市公民館設置及び管理に関する条例」が全面改正
公運審各館7名配置を明記
- 4月 「国分寺市保育室使用実施細目」制定
- 4月 「国分寺市附属機関の設置及び運営の基本に関する条例」施行
- 4月 「国分寺市情報公開条例」施行
- 4月 第二次公民館体制検討委員会設置
- 5月 もとまち地域センター開館
- 6月 「国分寺市立公民館講師派遣に関する事務取扱基準」改正
- 3月 第二次公民館体制検討委員会が、印刷機問題・月曜開館を教育長に報告し終了

日本の動き・世界の動き

- 4月 社会教育法一部改正施行
公民館運営審議会任意設置に
- 4月 小渕恵三首相急逝に伴い森喜朗が首相に就任
- 7月 雪印乳業集団食中毒事件
- 7月 沖縄でサミット開催。二千円札発行
- 9月 三宅島噴火で全島避難
- 9月 シドニーオリンピック開催
- 1月 ジョージ・ブッシュ米大統領が就任

今年の漢字

金



公民館の花壇を
季節の花が飾ります



「ガーデニング入門」から

みどりのゆびの会 吉田 多美子

21世紀幕開けの年の6月、もとまち公民館前で地域の人たちが、慣れない手つきでレンガを積んで花壇を作り、草花を植え込んでいました。それまで、つつじが植わっていただけの場所が、わずか数時間で、見事にデザインされた花壇に変貌した時には、あちこちで驚きの声があがりました。人びとの環の中心にいたのは、「ガーデニング入門」の講師、中山晃先生。この、ヨーロッパで修練を重ねた緑のコーディネーターの「日本に花と文化を、時間をかけて育てたい」という情熱に心を動かされた人たちの間から、「みどりのゆびの会」という小さなボランティアグループが誕生したのは、必然といえるかもしれません。

月に一度、出来あがったばかりの花壇の世話をしながらのささやかな活動ではありましたが、気がつくと、わずか10数名の会員でありながら、確実に地域に根を下ろしてきました。その後、グロッセ世津子さん、柳宗民さん、曳地トシさん・義治さん夫妻、望月南穂さんら講師による公開講座を企画。ふれあいまつり・もとまちでの花マーケット開催で花を売った資金で、花壇に季節の花を植えてきた結果、地域の方からお褒めや感謝の言葉を寄せられることも度々で、活動がアサヒタウンズ紙に取りあげられたこともありました。さらに、本多公民館でも、私たちのようにコミュニティーガーデンを作ろうと、「ミントクラブ」という会が立ちあがるという嬉しい事実もありました。

コミュニティーガーデンというのは、地域の人々が協働で作る庭、みどりのまちづくりへとひろげていこうという欧米で始まった取り組み。そして、その若木は小さいながら、あなたの街の公民館前に9年目の実を、すくと輝かせ立っています。

2001 (平成13)年度

もとまち公民館の主な動き

- 4月 職員棟方貞夫、本多公民館へ。木場理恵並木公民館から着任
- 4月 第11期もとまち公民館運営審議会答申 「社会が大きく変化する中で、今後、地域住民や利用者によってより身近な施設となるために、もとまち公民館が果たす役割と課題～今後10年間の目標と展望づくりのために～」
- 5月 第12期もとまち公民館運営審議会発足（委員長 井上四郎）
- 7月 冷暖房設備改修工事(9日間休館)
- 3月 館長人事に関する要望書提出

もとまち公民館の重点目標

- ①「もとまちらしさ」の事業化
- ②利用者懇談会等における意見の尊重
- ③『生涯学習市民意識調査』等の結果の重視
- ④高齢者問題、IT革命への対応など行政課題への取り組み

新しい講座・事業など

- 4～6月 講座 茶の湯文化入門
- 5～10月 簿記3級実務講座
- 7月 IT講習会
- 7～12月 老人クラブなどへ高齢者健康づくり出前講座
- 9月 地域のために何ができるか
- 10～3月 水と緑のまちづくり講座
- 2～3月 国際関係講座
- 2～3月 ワールドカップを2倍楽しむヤングサロン

国分寺市の動き（公民館関係を中心に）

- 4月 施政方針「市民と協働のまちづくり」を柱に
- 4月 第三次公民館体制検討委員会設置（3月に報告書）
- 5月 野村武郎が教育委員会教育長に再任
- 6月 パソコン検討委員会設置（2月に報告書）
- 7月 市長に星野信夫が当選
- 8月 国の政策により、各館でパソコン講習会開催
- 8月 星野市長就任にあたって、「夢あるまちづくりを！」
- 12月 「けやきの広場」の中で、30周年を迎えた国分寺市の公民館保育室活動を記念して「明日につなげよう公民館保育室の輪」が行われた

今年の漢字

戦

日本の動き・世界の動き

- 4月 小泉純一郎、首相に就任
- 7月 社会教育法改正
- 9月 アメリカで9.11同時多発テロ
- 12月 皇太子妃が女兒を出産
- 2月 ソルトレーク冬季オリンピック開催

行政改革と公民館～これからどうなる！～

くらしの情報散歩道 小峰 義夫

《この10年（平成9～20年）の流れ》

国や市の財政状況が厳しさを増すなかで、21世紀へ向けた新たな行政需要や地方分権への対応として、1996（平成8）年に国分寺市行政改革検討委員会が設置されました。この委員会は、“最小の経費で最大の効果”を目標に翌年「第一次行政改革大綱・実施計画（期間5年）」を策定、1997（平成9）年7月、各所轄部課へ具体的改革案が示されました。公民館に対しては、公運審及び保育室のあり方等の見直しが指摘され、公民館では1998（平成10）年2月「公民館体制検討委員会」を発足させ、対応しました。この第一次行政改革（平成9～13年度）は、さらに4つの指摘事項が加わりましたが、いずれも“費用と効果”のバランスがとれた指摘事項であり、熱心な協議によって、“最大限の効果”が得られたと思います。

2002（平成14）年に始まった第二次行政改革計画は、「七つの行政経営の改革方針」による国分寺市にふさわしい計画を市民参加で策定しました。改革の実行は、国の構造改革の影響もあって、“最小の費用”に偏重したものでした。公民館側は公運審の削減や館長人事、専門職員の未補充など行革指摘事項の受け入れが、利用市民へのサービスの低下になるとして、市民への説明会やワークショップを開催し、理解を求めました。結果的に行政内部の調整・連携が充分でなく、かえって市民と行政の相互信頼を失うことになったのは、大きな反省点です。この「流れ」を「行政と公民館」両当事者がしっかり認識し、今後の行政経営改革推進の糧となるよう、記念誌に記述することは、意義あることと考えます。

《これからどうなる・どうするか》

幸い国分寺市は、第四次長期総合計画と第三次行政改革プランが一体化して平成19年度同時発進しました。そして二つの計画は、検討の初期から市民参加・協働で策定・施行に漕ぎつけた内容の深い計画とプランです。この行政改革プランと一体化した、長期基本計画の舞台は、陳腐化した「行政システム」を抜本的に改革する絶好の「場」と「チャンス」です。

公民館としては、専門職資格を有する係長職館長の新体制にて、いざ実行という矢先、「世界金融危機」と「世界同時不況」に直面しました。市への影響も心配ですが、当面の対応を市長部局に委ね、公民館本来の使命に向かって邁進し、まちづくりに貢献することが大切です。

30周年という節目の年に、市政の将来に関わる難問に直面したこと、また反面、懸案であった、市の最高規範「自治基本条例」が平成20年12月2日第四回定例市議会、本会議にて全議員の賛成で可決され成立した意義は極めて大きいのです。最高理念が定まらないと「第四次長期総合計画と第三次行政改革プラン」は内容が深く、行政、議員、市民、それぞれに戸惑いもあって、施行後2年間が経過するのに、大切な行政経営改革の成果が上がらないのです。

自治基本条例の可決は「市政のシステム改革」を促進し、この「世界同時不況」の嵐から市民生活を守る《錦の御旗》です。市民・議会・行政が一体となって、蓄積してきた専門知識や情報と感性などを総動員して、試行錯誤を重ねることが重要です。

公民館としては、まず「自治基本条例と第四次長期総合計画」の学習講座を設け徹底的に学びあう等々、教育の立場（人間形成の面）から「まちづくり」に貢献する。この、行政との連携こそが、公民館のこれからの課題と役割ではないでしょうか！もとまち公民館の10年後、20年後がより楽しく・より発展的でありますよう心からお祈りいたします。

2002 (平成14)年

(館長 吉澤 幹雄)

もとまち公民館の主な動き

- 4月 館長竹内悟、議会事務局へ。吉澤幹雄、議会事務局から着任
- 11月 2階のロビーの一面以外は、館内を禁煙とした
- 1月 公運審定例会にて、館長兼務問題について「決裁権限を持った専任館長が各館に必要」とのまとめの文書が館長あてに提出された

もとまち公民館の重点目標

- ・青少年と公民館との積極的關係づくりを目指す
- ・IT 技能の向上を図るため、技術に応じた指導講習などを実施
- ・公民館利用グループが蓄積してきた学習成果や能力の地域還元を目指し、研究を進める
- ・利用グループ増加に対応し、休館日を月1回、第3月曜のみとする

新しい講座・事業など

- 4～6月 高齢者健康づくり教室
- 5～10月 簿記3級実務講座（資格取得を目指す講座）
- 6月 サッカーワールドカップ<Lホールで日本チームを応援しよう>
- 6～7月 楽しいペーパークラフト⇒グループ「ペーパークラフトの会」発足
- 7～2月 水と緑の講座・こども冒険クラブ
- 9～2月 子どもパソコン教室1～4
- 2月 講座 地域と暮らしと公民館

国分寺市の動き（公民館関係を中心に）

- 4月 国分寺市組織改正 社会教育部と学校教育部を一本化し、教育部へ社会教育課は生涯学習推進課に改組
- 4月 「国分寺市公民館設置及び管理に関する条例」を改正（休館日減）
- 4月 もとまち地域センター開館
- 4月 ファミリーサポート事業開始
- 5月 市民行革プラン発表と改革推進シンポジウム開催
- 5月 第四次公民館体制検討委員会発足（3月に報告書）
- 8月 公民館においてパソコン一般利用開始
- 8月 住民基本台帳ネットワークシステムへの参加見合わせ
- 10月 国分寺市公の施設使用料減免基準検討委員会報告書
- 11月 第2次行政改革検討委員会答申

今年の漢字

帰

日本の動き・世界の動き

- 5～6月 日韓共催サッカーワールドカップ開催
- 10月 北朝鮮拉致被害者5人が24年ぶりに帰国
- 10月 ノーベル賞日本人ダブル受賞（小柴昌俊、田中耕一）
- 3月 イラク戦争開戦

「楽しいペーパークラフト 紙飛行機をつくる講座」から

ペーパークラフトの会 高橋 正一

「楽しいペーパークラフト 紙飛行機をつくる講座」は、小中学校に「ゆとり教育」が導入された 2002 年にもとまち公民館に開設されました。作っているのは、胴体が割り箸、翼が葉書でできた約 7 グラムの紙飛行機です。講座では、先生から飛行機の飛行理論や作り方、調整方法、そして飛ばし方等を教えていただきました。講座が終了した後、ペーパークラフトの会を立ち上げ、もとまち公民館を活動拠点として自主活動が続けて、多くの紙飛行機を製作し、飛ばして楽しむことができました。

活動をしている中で、当会の活動に関心が寄せられ、子どもたちに教えてほしいという要望がありました。当会は、当初、教えるとか指導するということは、あまり意識していませんでした。しかし、子どもたちの“好奇心や冒険心を育む”お手伝いができるなら、「ゆとり教育」の一助になるものならと、一緒に作って飛ばして楽しむという伝承理念で要望の一部を受け入れました。

2005 年には、本多公民館主催の「異世代交流事業」に参加するチャンスに恵まれ、子どもから大人までだれでもいつでも参加できる「紙飛行機教室」にしました。昨年度までは、2 か月に 1 回偶数月の第 2 土曜日、今年度からは毎月定期的で開催しています。第 2 土曜日 10 時から 12 時までが製作、12 時から 30 分、ホールでの飛行体験を行っています。特に、飛行体験は、子どもたちも付き添いのお母さんたちも、そして初めて参加した人も目を輝かせて、歓声をあげて飛ばしています。当会のスタッフも喜びを感じるひとときです。

当会は、定例的な活動の他に市内の小学校や児童館、高齢者施設等で「紙飛行機の製作と体験」を開催したり、新緑まつりや万葉花まつり等で「紙飛行機コーナー」を設置するなどの活動もしています。最近、マスコミの取材を受け、当会の活動が紹介されました。



ペーパークラフトの会の活動が
紹介された新聞記事
(埼玉新聞 2008 年 5 月 12 日)

2003 (平成 15) 年度

もとまち公民館の主な動き

5月 第13期もとまち公民館運営審議会発足（委員長 井上四郎）

もとまち公民館の重点目標

- ・生涯学習の推進拠点として、地域で子どもから高齢者までが主体的に取り組め、また健やかな暮らしを実現するための事業に取り組む。
- ・継続する事業の充実、自主グループの活性化のために、求めに応じ、援助する。

新しい講座・事業など

- 5～7月 のびのび健康教室＜高齢者対象＞
- 6～3月 FMもとまち放送局
- 7～8月 子ども陶芸教室
- 9～3月 教育講座＜学んでどうということ＞
- 12～2月 水と緑の講座・こども冒険クラブ（文部科学省「地域と学校が連携協力した奉仕活動・体験活動推進事業」の委託金を受けた）

国分寺市の動き（公民館関係を中心に）

- 8月 住民基本台帳ネットワークシステム一次稼働へ参加
- 9月 『国分寺市立公民館40周年資料集』発行（五公民館）
- 10月 「健康増進法」の施行を受けて、市内の公民館は全館禁煙
- 10月 第五次公民館体制検討委員会設置（04年11月に報告書）
- 12月 教育委員会は「行政改革における公民館職員体制（館長兼任問題）について」をまとめて、館長兼任は認められないとの結論を出した
- 12月 大平恵吾が教育委員長に再任
- 12月 ぶんバス東元町ルート運行開始
- 2月 住民基本台帳ネットワークシステム二次稼働へ参加
- 2月 5人の公民館長を3人とする館長兼任案に対して、各館に専任館長を置くと教育委員会が結論

今年の漢字

虎

日本の動き・世界の動き

- 4月 東アジアで新型肺炎（SARS）の流行
- 1月 自衛隊にイラク派遣命令
- 2月 BSE問題により、牛丼販売一時休止

FM もとまち放送局

元もとまち公民館職員 木場 理恵

2003年に、もとまち公民館近辺の身近な情報を得る機会の一つとして、もとまちFM放送局を開設しました。およそ半径200メートルの範囲に届く弱い電波です。公民館の目前には大きなマンションがあり、その弱い電波がなかなか遠くに飛ばないという弱点を抱えた放送局です。

この事業のねらいは、自分たちが地域の情報を自ら発信するということと、発信する作業を通して参加者同士がつながりを深めていくというものでした。

当時の放送局のスタッフ募集記事には『知力も財力も話術もなく、あるのは気力と体力と好奇心のみですが、一緒に準備にかかわってくださる方募集中』とあります。スタート当初のスタッフは、30代～60代までの大人と小学生キャスター4人です。

第1土曜日の午後の2時間の生放送（他の週は第1土曜日の放送を録音したものを再放送）と企画会議（月1回）を毎月持ち、放送の中身を検討しました。

小学生による創作劇の発表・街頭インタビュー・英会話レッスン・国分寺市出身のミュージシャンであるセカハンの演奏など、多彩な企画を盛り込みました。

ふれあいまつり・もとまちでは、印刷室の片隅に機材を設置して、生放送でまつりの様子を伝えました。小学生キャスターが参加者にマイクを向けて歩きました。来館中の市長への突撃インタビューもありました。

放送にあたっては、本や音楽では著作権の問題が生じ、希望の作品を取りあげることができず、残念な思いもたくさんありました。

せめて、もとまち公民館近辺には、くまなく放送が流れてほしいと思いながら、難しい面も多く、放送局としては3年あまりで幕を閉じることになりました。この間、多くの人とともに一喜一憂しながら、地域の情報を知り、少しでも伝えられた喜びはなにごとにも代えがたいものになっています。



1階ロビーから生放送

2004 (平成 16) 年度

もとまち公民館の主な動き

- 4月 職員木場理恵、本多公民館へ。職員百瀬道子、本多公民館から事業係長に

もとまち公民館の重点目標

- ・教育講座の継続／充実
- ・高齢者の健康づくりに関する講座を開催する
- ・講座から生まれた自主グループの育成を図る

新しい講座・事業など

- 5～6月 フラワーアレンジメント教室
 6～7月 写真講座⇒自主グループ「フォトクラブもとまち」発足
 7月 子ども工芸教室（ガラス）
 9～3月 幼い子のいる女性のための教室⇒自主グループ「ぐーちーぱー」発足
 2～3月 国際経済講座（日本と世界経済）



国分寺市の動き（公民館関係を中心に）

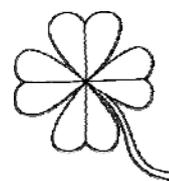
- 4月 恋ヶ窪公民館、職員1人減
 6月 恋ヶ窪公民館を西国分寺駅東地区に移設する案が市内建設推進会議で提起される
 7月 恋ヶ窪公民館に嘱託職員1人配置
 8月 第45回関東甲信越静公民館研究大会・第42回東京都公民館研究大会
 本多公民館を中心に開催（国分寺市は事務局を担当）
 1月 公の施設管理運営検討委員会発足
 3月 17年度予算の提案にあたって「公の施設の管理運営手法の改革」で「公民館、地域センターは、生涯学習および地域地力強化の拠点として機能を強化しつつ、管理運営については、市民と協働運営等を検討する」

今年の漢字

災

日本の動き・世界の動き

- 8月 アテネオリンピック開催
 10月 新潟県中越地震
 3月 スマトラ島沖地震・大津波



写真の楽しさ

フォトクラブもとまち 蒲田 博次

もとまち公民館開館 30 周年、ご同慶の至りです。公民館が企画された教養や趣味等のさまざまな講座に多数の市民が参加し、仲間との交流を通して知識を広げたり、また新しい発見があり、フォトクラブもとまちもこうして生まれました。まだ 4 年のグループです。

活動は原則として月 1 回。奇数月に、市内在住の先生に会員が持ち寄った作品の講評を受けます。どう被写体を捉えるか、見る人に強烈な印象を与えるにはどうしたらよいか、有意義な指摘があります。偶数月は会員だけで近郊へ、四季の風物を探訪しながら撮影に出かけます。

今は、ほとんどの人がカメラを持っています。一眼レフ、コンパクトカメラ、それに急速に普及したデジカメ等々。そしてだれにでも簡単に写すことができます。同じ被写体にカメラを向けても、写されたものは人それぞれ異なります。それが「写真は個性の反映だ」といわれることだと思います。対象をよく観察することによって物の見方や考え方が変わってきて、自分の目で見た写真が撮れるようになってと思います。カメラをバッグに入れて散歩に出ましょう。きっとよい被写体に出会えると思います。



「ふれあいまつりもとまち」でロビーに作品を展示

2005 (平成 17) 年度

(館長 伊藤 勘一)

もとまち公民館の主な動き

- 5月 第14期もとまち公民館運営審議会発足 (委員長 大高智美)
- 10月 さわやかプラザもとまち、もとまち児童館と3館共催で、ふれあいまつりもとまちを開催
- 10月 1階ロビーに飲料自動販売機を設置
- 3月 第1回地域会議が開かれる

もとまち公民館の重点目標

- ①地域の課題を話し合う地域会議を呼びかける
- ②近くにできる高齢者センターに関連した講座を開催する
- ③演劇講座を開催し、地域の演劇グループとして定着させる

新しい講座・事業など

- 5～7月 演劇体験講座 (10月のふれあいまつり・もとまちに参加)
⇒自主グループ「ぶんげき」発足
- 9～3月 幼い子のいる女性のための教室⇒自主グループ「バンビーナ」発足
- 1～3月 第二の人生を生きるく地域デビューのために>
- 1～2月 韓国家庭料理に挑戦
- 3月 バードカービング 木彫りのカモを作ろう
⇒自主グループ「国分寺バードカービングクラブ」発足

国分寺市の動き (公民館関係を中心に)

- 4月 さわやかプラザもとまち開館
- 4月 行革推進本部公民館・図書館への指定管理者制度の適用について検討
- 5月 松井敏夫が教育委員会教育長に就任
- 7月 市長に星野信夫再選
- 8月 「指定管理者制度に係る基本方針」発表
- 11月 「国分寺市立公民館のあり方を考えるワークショップ」(公募委員 26人)設置
- 3月 国分寺市機構改革検討委員会が、係長職館長への移行を求める

今年の漢字

愛

日本の動き・世界の動き

- 4月 JR福知山線脱線事故
- 11月 耐震強度偽装問題
- 2月 トリノ冬季オリンピック開催



バードカービング（野鳥彫刻）で広がる世界

国分寺バードカービングクラブ 岡田 臣生

当クラブは、平成 18 年 2 月、日本バードカービング協会理事水上清一氏を講師とした、もとまち公民館の「カルガモを彫る」講座が発展し、平成 19 年 4 月に水上講師を先生とし、趣味のクラブとして発足し 2 年と 6 ヶ月も経ちました。

発足当初は 8 名（男性 4 名・女性 4 名）にて出発しましたが、現在 7 名（男性 5 名・女性 2 名）と少なくなっています。

さて、この 2 年 6 ヶ月で 4 作品（ミニカワセミ・^{しじゅうから}四十雀・カワセミ・コノハズク）を制作し、現在はミミズクに取り組んでおります。先生には会員一人一人の技量・個性に応じて指導をしていただいておりますので不器用な私でも満足できる作品を作ることができているようです。

平成 20 年 7 月に恋ヶ窪公民館の異世代交流事業で小学生に“ミニカワセミ”の制作指導をいたしました。何の躊躇もなく引き受けましたが、子どもたちの多様な個性・感性を発揮され、戸惑うこともあり、教えることの難しさを知りました。子どもたちと野鳥や花木を話題にしながらかつ楽しく指導したことは日がたつにつれて思い出されます。このような機会を持つことを再び期待しながらカービングを精進し、技を磨きたいと思っています。

毎年、ふれあいまつり・もとまち、昭和記念公園バードカービング展に出品していますが、昨年は当会員数人が 11 月に執り行われた“全日本カービングコンクール 2008”にも出品しました。受かるかな・落ちるかな？

（編集部会補記：後日発表があり、みごと受賞なさっています。）

公民館の 2 年を振り返って

前もとまち公民館長 伊藤 勸一

平成 17、18 年度とお世話になり、まず初めに感じたことは、いつも利用者が訪れて活気がある職場ということです。なれてくると利用者の多くは同じ人の利用と気づき何故だろうと思った時期もありました。一つのグループが毎週のように活動を行い継続することは若さや健康を保つことには欠かせないものと教えられたものです。

私が担当した事業では、ふれあい散策、美術散歩や地域を知る実践講座等があります。なかでも、ふれあい散策を募集人数の制限をせずに行い無事故に終わることができたことは、ひとえに利用者連絡会の皆様方のご協力によるものと思っております。

初めに行った青梅の塩船観音のつつじ観賞、最後に行った浜離宮とお台場商店街は申込者全ての方が参加したことで如何に楽しみにされていた事業であったかがうかがえるといえます。

このように事業を行うなかで、盆栽と地域を知る実践講座から 2 つのグループができたことは特筆できるものと思っております。私自身もグループに参加させていただいて感じたことは、盆栽では如何にしたら形の良いものができるかであり、また散策では庭園・紅葉等自然を楽しむことでありそれぞれ目的が違いますが一番肝心なのはそのグループの「和」と思っております。

今年で 30 周年という歴史のなかで、わずか 2 年でございましたが携われたことに感謝いたします。

公民館も過渡期に来ております。今後はますます地元の方との交流が深まれば地域の輪としてもっともっと大きな輪に広がることと思っております。

おめでとうございます。

2006 (平成 18) 年度

もとまち公民館の主な動き

- 4月 職員小林義夫、くらしの安全課へ異動。職員深石和夫、光公民館から着任
- 3月 第14期公民館運営審議会答申「公民館の利用者層の拡大について」
- 3月 第1回地域会議開催

もとまち公民館の重点目標

近くに建設された高齢者センターと連携しながら、「ふれあいまつり」などに多彩な催しを企画する

新しい講座・事業など

- 9～2月 充実した後半生のために
⇒自主グループ「充実した後半生を語る会」発足
- 9～11月 地域を知る実践講座⇒自主グループ「楽友会」発足
- 1～3月 初級盆栽講座⇒自主グループ「もとまち盆栽会」発足
- 1～3月 ピラティスマットエクササイズ（保育あり）
⇒自主グループ「ママティス」発足

国分寺市の動き（公民館関係を中心に）

- 6月 「公民館・図書館については、当面の間、直営とする」ことが、教育委員会定例会で審議され、決定
- 9月 「国分寺市立公民館のあり方を考えるワークショップ」が、3課題についてまとめ、教育委員会に提出
- 12月 「公民館に、当面は係長による館長を配置する」ことが、教育委員会定例会で決定。「公民館運営審議会は地区独立館方式を維持するために、各館配置とする」「公民館職員については、専門性に配慮した適正な人事配置に努力する」も決定
- 3月 国分寺市機構改革検討委員会が、「公民館長は係長の配置とし、総括的な管理職を1名配置」などとする公民館に関わる報告書をまとめる

日本の動き・世界の動き

- 8月 早稲田実業高等部硬式野球部、夏の甲子園で初優勝
- 9月 秋篠宮妃が男児を出産
- 9月 安倍晋三が首相に就任
- 10月 北朝鮮核実験
- 12月 教育基本法、改正
- 3月 能登半島沖地震

今年の漢字

命



子育てを支えるピラティスのひととき

ママティス 岩元 加奈

毎週金曜日ピラティスをしている0～3才の子どもがいるママたちのグループです。ピラティス以外にもふれあいまつりの準備や話し合い、育児の情報交換等をしています。

ピラティスはママたちだけで、講師の指導のもと、マット運動をしています。子育てにより偏っている身体の凝り固まった部分をストレッチし、全身をほぐしています。日々の抱っこやおんぶで肩こりや腰痛を患っているママも、レッスンの後には痛みが和らぎ、とても気持ちよく、あつという間に時間が過ぎてしまいます。出産後、初めて自分の身体だけでなく、心とも向き合える貴重な時間です

私たちがゆっくりピラティスができるのは、公民館の保育室に子どもを預けているからです。子どもたちは、10時から12時まで公民館の保育室で、保育者の方々と楽しい時間を過ごしています。子どもたちは入室すると、各自決められた下駄箱に靴を入れ、荷物置場にカバンを置きます。その後、出席シール帳にシールを貼ったら遊び始めます。1時間ぐらいたったところで手を洗い、みんなそろって保育者が用意してくれたおやつを食べます。食べ終わるとまた遊び、お迎えの時間が近くなると、お片づけをして歌を歌いながらママたちのお迎えを待っています。

ママたちはピラティスで心も身体もリフレッシュでき、笑顔でお迎えに行くことができます。子どもたちも迎えに来てくれたママの顔を見て笑顔になります。我が子がとても愛しく感じるができる瞬間です。子どもたちは保育室で毎週会うお友達と過ごすことで、集団生活の大切さを学び、母親から離れて過ごす自立も自然に身についてくると思っています。私たち親は公民館や保育者の方々とコミュニケーションをとり信頼しているので子どもたちを安心して預けることができ、保育室を利用させていただける環境にとっても感謝しています。今後も私たちのように、集まって楽しく活動できるママたちが増え続けていけることを願っています。

あすなろ

もとまち盆栽会 多田 寿成

平成19年1月、公民館だより「けやきの樹」に「初級盆栽講座」5回コースの募集案内が掲載されましたが、この記事が当会発足の原点になっております。

受講生の皆さんとは、同好の友だけに、受講しているうちに気心も知れ、最終回の3月、5回が終わる頃はこのまま解散では物足りない、もっともっと知識を深めたい、と異口同音に盆栽会を作って継続しようということになりました。これには当時の館長伊藤さん（現在も会員）、担当職員の深石さんのご尽力と、なんといっても講師の田中博治先生の専門家以上の知識と教え方、お人柄に受講生一同が共鳴したからであります。

平成19年4月15日設立総会を開催。「もとまち盆栽会」は賛同者15名をもって発足したのであります。（平成20年10月現在では17名となっている）

この一年間、盆栽とは何か？から始まって盆栽園を訪問する際の注意点までの基本的な知識を深めて、現在は挿し木、植え替え、整枝剪定、針金掛け、鉢映り、展示のしかた等々、毎月新しい知識を田中先生ご指導のもとで培ってきました。

平成20年のふれあいまつり・もとまちには、^{じゅくはいもの}会員の挿し木、養生の成果、展示の仕方等をご覧いただきました。始めて1年の若輩会ですから盆栽の体裁は当然ながら整っていなかったかもしれませんが、しかし、数年のうちには化粧鉢に植わった立派な盆栽としてご高覧の榮に浴することができるものと、会員一同「あすなろ、あすなろー」と精進してまいる所存でございます。ぜひご期待ください。

2007 (平成19)年度

(館長 百瀬 道子)

もとまち公民館の主な動き

- 4月 館長伊藤勘一、下水道課へ異動。職員百瀬道子、館長に職員佐藤緑、本多図書館から着任
- 5月 第15期もとまち公民館運営審議会発足（委員長 廣田 廣）
- 11月 第7回けやきの広場「出会い ふれあい 学びあい-みんなの公民館-」がもとまち公民館を会場として開催される
- 12月 第1回もとまちファミリー運動会を一小校庭で開催
- 12月 もとまち公民館開館30周年記念事業実行委員会発足

もとまち公民館の重点目標

- ① 第14期公運審答申「利用者層の拡大を目指して」を生かす事業の工夫をする
- ② 地域会議での話し合いを生かした事業にとりくむ
- ③ 「けやきの広場」の事務局として実施に向けて準備する

新しい講座・事業など

- 9～11月 初心者料理で仲間作り⇒自主グループ「素人料理クラブ」発足
- 9～3月 幼い子のいる親のための教室⇒自主グループ「トイズ」発足
- 12月 もとまちファミリー運動会
- 1～3月 情報社会に生きる私たち

国分寺市の動き（公民館関係を中心に）

- 4月 五公民館館長が、課長職から係長職に体制変更。課長職はおかず教育委員会に教育次長（教育部長と兼任）を置き、公民館の決裁をする
- 12月 公民館使用条例等検討委員会が発足
- 12月 大平恵吾教育委員長3期で退任。内田修が教育委員長に

日本の動き・世界の動き

- 5月 社会保険庁、不明年金記録五千万件発覚
- 7月 自民、参院選で歴史的な大敗
- 9月 ミャンマーの軍事政権に抗議デモ。日本人撃たれ死亡
- 9月 福田康夫、首相に就任
- 10月 郵政民営化
- 1月 中国製餃子で中毒

今年の漢字

偽

居心地のいい活動

素人料理クラブ 大野 薫子

平成 19 年 9 月、私は主人を伴い、いそいそとまち公民館へ出かけました。もとまち公民館主催の「初心者料理で地域の仲間作り」という講座に参加するためです。行ってみると皆で 12 名でした。講師の先生のご指導のもと、月 1 回の料理教室通いが始まりしました。本音は、主人も料理が好きになってくれたら……そしてたまには作ってくれたら……。しかし自分で教える自信がなく、料理教室で教えていただくことになったのです。和気あいあいと笑顔で参加するうち一年がたちました。公民館の方のお導きもあり、自主グループ「素人料理クラブ」として再出発し、自主運営をすることになりました。幹事さんには大変お世話になっておりますが、講師はこれまでの先生に継続していただきました。公民館の実習室では去年にも増して賑やかな声を響かせて活動しています。

実習内容は、野菜の切り方から始まり、材料を煮たり焼いたり炒めたり、献立も和風、洋風、中華風とさまざまな料理を経験しました。鯛のかぶと煮から焼き豚、肉じゃが、えびのチリソース煮と私たちの腕も少し上がったのではないのでしょうか。献立は、会員の希望に添いつつ、日常家庭で食べるものを中心に講師の先生と相談して決めています。

作るものはなかなか定評があり、「家庭で作ったら家族にほめられた。」とか「ゴーヤーの炒め物が好評で 3 回も家で作ったよ。」という方もあり、実習したことが日常生活に生かされていると感じ嬉しくなります。

お名前を覚え仲間として活動していくうちに、最近では「〇〇にお花見に行きませんか。」「〇〇に秋を楽しみにでかけませんか。」との企画もでき、会もなごやかになり、とても居心地がいいのです。

いっしょに活動してみたいと思われる方がありましたら、窓口は広く開いています。どうぞお声をかけてください。最後になりましたが、公民館の施設を快く提供して下さることに感謝し、公民館のさらなる発展を心より願っております。



講座の様子



2008 (平成 20) 年度

もとまち公民館の主な動き

- 8月 1階ロビーの公衆電話撤去
- 10月 もとまち公民館開館 30周年記念行事開催
- 11月 第2回もとまちファミリー運動会一小体育館で開催
- 1月 公民館運営審議会五館交流会をもとまちで開催
- 3月 もとまち公民館開館 30周年記念誌『30にして立つ』発行
- 3月 もとまち公民館開館 30周年記念パーティー実施

もとまち公民館の重点目標

- ・開館 30周年を迎えて、記念事業と記念誌の発行を準備する
- ・地域会議の課題の整理
- ・市民との協働のあり方について、運営審議会などで協議

新しい講座・事業など

- 9～11月 家族の老いについて考える講座
- 1～3月 男声合唱講座

国分寺市の動き（公民館関係を中心に）

- 4月 公民館だより「けやきの樹」横書きに 紙面刷新
- 4月 生涯学習推進課は、生涯学習・スポーツ振興課に改組
- 4月 いずみホール・スポーツセンターなどが指定管理者に移行
- 4月 市役所が耐震問題で使えなくなり、教育委員会はひかりプラザに移転
- 6月 国分寺市公民館使用条例等検討委員会が報告書を教育委員会に提出
- 11月 並木公民館、開館 20周年記念事業
- 12月 国分寺市自治基本条例、可決成立

日本の動き・世界の動き

- 5月 中国四川大地震
- 6月 社会教育法、改正
- 7月 洞爺湖サミット開催
- 8月 北京オリンピック開催
- 9月 リーマン・ショックから世界同時不況へ
- 9月 麻生太郎、首相に就任
- 10月 小林誠、益川敏英、南部陽一郎、下村脩
ノーベル賞受賞
- 1月 バラク・オバマ米大統領が就任

今年の漢字

変

参考資料：『読売年鑑』読売新聞社
『朝日新聞報道写真集』朝日新聞社



大盛況の第1回・第2回

もとまちファミリー運動会



↑ 第2回 一小体育館で開催



第1回 一小校庭で開催

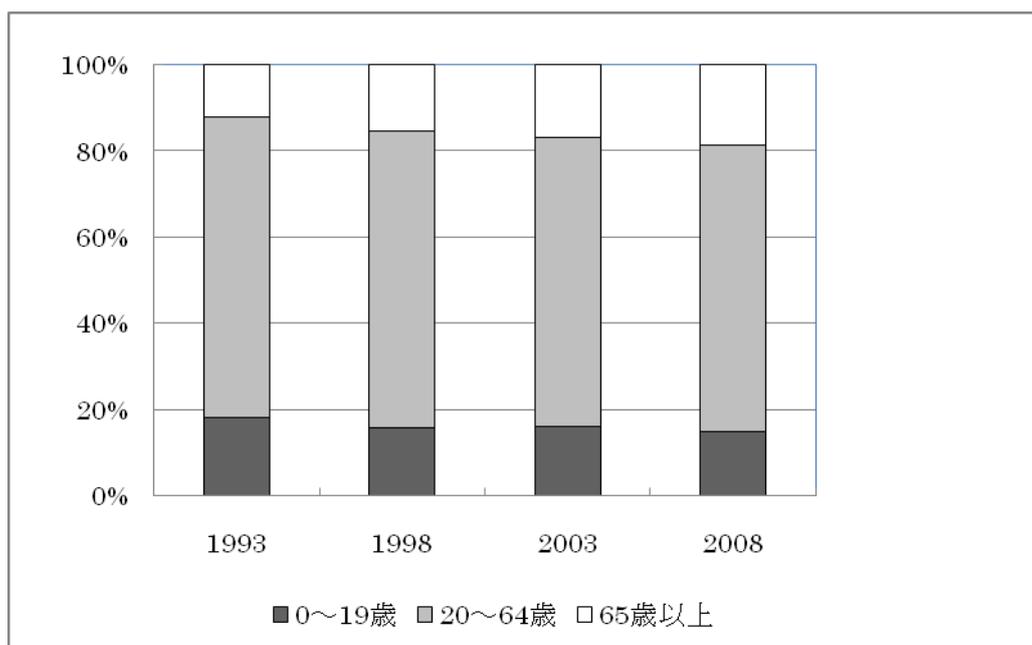


<参考>

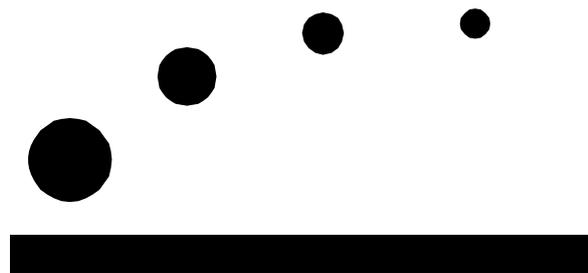
もとまち公民館地域（東元町・西元町・南町・泉町）の年齢別構成推移

	1993(平成 5)	1998(平成 10)	2003(平成 15)	2008 (平成 20)
65 歳以上	2,782	3,582	4,651	5,265
20～64 歳	15,874	16,081	18,571	18,538
0～19 歳	4,151	3,669	4,424	4,163
合 計	22,807	23,332	27,646	27,966

(単位 人)



国分寺市統計より



Ⅱ 30周年記念行事

式典

座談会

事業写真から

利用者アンケート

もとまち公民館30周年記念行事

日時 10月18日(土) 午前9時30分～12時

式典 (午前9時30分～10時)

開会の辞 30周年記念事業実行委員会委員長 廣田 廣
祝辞 国分寺市長 星野信夫
国分寺市教育委員長 内田 修
国分寺市議会議長 須崎 宏

アトラクション

演奏：かえでアンサンブル
(弦楽アンサンブル)
モーツァルト「メヌエット」
ブラームス「ワルツ」
バッハ「メヌエット」他
全員合唱 『もみじ』



座談会 (午前10時～12時)

テーマ「わたしとふるさと国分寺市～公民館を核として」
公民館の30年の歩みを踏まえ、地域の核となる公民館の
今後のあり方を考えあいます。

発表 もとまち界限今昔 地元在住 小坂長吉さん
発表 学習から実践へ NPO法人あおぞら 原 俊男さん
発表 地域で活動する意味 国分寺市交響吹奏楽団 小池 紋さん
フリートーク 国分寺によせる思い これからの公民館に望むこと

コーディネーター 東京学芸大学 倉持伸江さん

もとまち公民館開館 30 周年記念行事 2008 年 10 月 18 日（土）
座談会 わたしとふるさと国分寺市～公民館を核として

発表 小坂長吉 農業 地元在住
原 俊男 NPO 法人あおぞら事務局長
小池 紋 国分寺市交響吹奏楽団副団長
コーディネーター 倉持伸江 東京学芸大学講師
進行 廣田 廣 30 周年記念実行委員長

はじめに

30 周年記念事業実行委員長

もとまち公民館が開館して 30 年経ちました。この 30 年間、社会情勢は急速に変化してきました。特に直近 10 年間は公民館を取り巻く環境は厳しくなっています。そんな中で、もとまち公民館は地域住民の要望と参加により建設されたという意味を「もとまちらしさ」として継承し、実績をあげてきました。

31 年目の出発にあたり、30 年の歩みを踏まえ、ふるさと国分寺への思いを語ると共に、地域連携の核となる公民館のこれからのあり方について、多くの人の意見を聴きたいと思い座談会を企画しました。

もとまち界限今昔

小坂長吉

戦前のもともち界限

私は話をしないものと付き合っています。相手は何を言っても文句を言わない、その代わり

返事もしてくれないということで、顔色を見い見い農作物に肥料をやったりして 60 年過ぎました。そんなことでうまい話はできません。

昨夜、少し考えて地図を書いてきました。



昭和 14～5 年頃の元町通りです（地図を指しながら）。

数軒の民家があり、周囲は全部畑だったんです。この辺に竹やぶ、茶畑があり、ここには栗林があり、我々が学校に行くときにはここへ集まって、冬になると栗の葉をここで燃やして、それから出かけました。

私は昭和 14 年に今の南口の西側にあった第一小学校に入学しまして、そのうちに国民学校になったんです。当時の農家は蚕が主体で、桑の木が多かったんですが、第二次大戦で食糧不足ということで、国の方から麦やサツマイモを作れという命令がありました。私はまだ小学生だったけど、鋏くわをもって桑の木をこいだこともありました。今度は国の方から作物を供出しろ

という話が出てきまして、東京府から国分寺の農協へ、そこから各支部へ、面積を計算して割り当てが来るんです。支部では、個々みんな違いますから、計算して各農家へ割り当ててのですが、割り出す計算ができる人が少ないのですよ。そんなことで大変だったようです。供出と言っても、足りない場合は自分の食べるものまで出さないでしょうがないですね。ひとつのブロックで共同責任というのか、一軒で足りなければある家が穴埋めしなければ、というような時代でした。



18年ごろ、敵機（アメリカ）が富士山から中央線沿いに東京へ入って空襲が来るようになって、第一小学校のグラウンドに防空壕を掘れということになり、毎日午後は穴掘りをしていました。当時は穴掘りの方が気楽でしたね。

卒業後、府中の農業高校に行きました。食糧不足の時代でしたから、学校に行っても畑仕事なんですね。本も紙もなく、先生もいなくて、試験問題も少なく、ほとんど勉強はしなくてずいぶん楽しんでね。当時青年会があって、頭が25歳でお終いで、そこに入ってみんなで運動会をしたり、馬力が多摩川から持ってきた砂利で土の道路を整地したりしていました。また、夜は畑をまわって野荒しをする人がいたんで、畑をまわって歩きました。

農地改革と元町通り

23年に農地改革があり、自作していれば、いくら作っても構わないが、貸していると基準によって、一反（300坪）380円で農地解放しました。30年代になって、食糧が緩和してきて、今度は不動産屋が動き出しました。農地改革でもらった土地は安かったんだから、そのうち返すようになるというデマを飛ばして、一反100万くらいで売った人が多かったんです。そ

の当時、かなりいろんな家ができたといい経過です。元町通りは30年の後半に、役場から1間出してくれと言われ、1間1,000円、私は100間あったから10万もらったが、植木や垣根があり、それを取り除くのに10万払って、だからいまだに垣根ができない。

もうひとつ、おじいさんから「60年周期にバブルがくるから気をつけろ」とよく言われました。というのは、20歳の人が60年経てば80歳になるので、昔のことを知っている人がいなくなるということで、だまされる人が出てくる。いい町を作るにはお互いに頑張っただまされないように一生懸命やりましょう。

学習から実践へ

原 俊男

退職して地域に

私は昭和44年に国分寺に越してきました。当時は、国鉄労働組合のストライキが頻繁に行われており、中央線がよく止まり、会社に泊まりこむことが多かったのです。国分寺にはストライキをしない西武鉄道が入っているというのが、選択理由の一つでした。

私は平成15年、63歳で現役を引退し市民活動に入ったのですが、本日は、事例を三つお話しさせていただきます。一つは、NPO法人あおぞらの設立と高齢者複合施設「さわやかプラザもとまち」についてです。以前から中央線の南側に高齢者の施設を作ってほしいという市民の要望がありましたが、平成11年8月に、公民館で高齢者福祉について学習していた市民団体、自治会、老人会が中心となり高齢者福祉施設の早期建設の請願書を提出し、2年後の平成13年12月に決定されました。市民側は「東元町高齢者複合施設建設促進連絡会」を設立し、施設の内容、運営のあり方を討議していきます。



平成14年にワークショップが設置され、建設が具体化するにつれ、自分達が運営に携わって、自分達の思いがこもった運営をやってみたいというような声が出てきました。平成15年9月に市から地元でNPO法人を作って管理運営をやってみたらどうか、という申し出がありました。ちょうどそのときに、私は現役を引退して町に何かお手伝いできないかと思っていた矢先だったので、同年輩の仲間から誘いを受け連絡会に入りました。63歳といったら利用者連絡会では若手の部類に属し、仕事がわんさとききました。

「さわやかプラザあおぞら」設立へ

平成16年4月に連絡会を「もとまち高齢者センター運営NPO設立準備会」に衣替えし、法人格取得に取り組み、6月、市との間に運営NPOに関する協働の協定を結びました。市にとってはこれが市民団体との間ではじめて結ばれた協働協定ではないかと思えます。平成18年4月にさわやかプラザもとまちがオープンしました。「あおぞら」は、建物の施設管理事業、生きがい健康企画事業、喫茶軽食事業の三つの事業を展開して、地域の高齢者の福祉に供するとともに高齢者、異世代交流、地域の交流の場として好評を得ています。

公民館と協働して実践

次は「蛭よもう一度の会」と水と緑の講座についてですが、「蛭よもう一度の会」は①国分寺崖線の保全、②真姿の池に蛭を飛ばそうということ、③地域交流の支援を活動の目的にしています。現在、公民館の2階ロビーに蛭の幼虫と蛭のエサになるカワニナの水槽を設置していただいております。カワニナについては、一小、四小、七小にも水槽を寄贈し生育をお願い

しています。蛭の幼虫については3年前からチャレンジして、今年はかなり幼虫が孵化し、来年は飛ばせるかな、というささやかな期待を持っております。公民館の「水と緑の講座」は「蛭よもう一度の会」との共催となり、里山保全活動として落ち葉かき、下草刈り、堆肥作り、間伐、植栽調査などを行っています。また夏には「子ども冒険クラブ カブトムシめつけ」を開催しています。これは落ち葉で堆肥を作り置いておくとカブトムシがわきますので、採集箱をつくり里山に仕掛けて1週間後に採りにいくのです。今年も60名が参加し、300匹ぐらい捕れました。

もとまち地域会議の発足

最後にもとまち地域会議ですが、平成18年に公民館・公運審・利用者有志が中心となり発足し、参加しているのは児童館、保育園、学校、PTA、自治会、老人会、民生委員、NPO、社会福祉協議会ボランティアセンターなどです。この会議はお互いを知ることからはじめ、お互いの活動を理解しながら、地域のネットワークを作ることが目的です。その具体的な活動として、昨年12月、第一回もとまちファミリー運動会を一小校庭で開催しました。300人弱の方が集まり大成功でした。今年第二回を11月16日に開催します。

もとまち公民館が主催した講座や構想から生まれた市民活動として「学習から実践へ」の実例を話させていただきました。

地域で活動する意味

小池 紋

略して“市吹（しすい）”

国分寺市交響吹奏楽団はもとまち公民館で毎週日曜日の夜、活動しています。前身は国分

寺市立一中の吹奏楽のOBバンドとして設立されました。当時の吹奏楽部顧問の先生の異動により、練習場所として借りていた一中の音楽室が使えなくなったのを機に、当時の世話役がOBバンドではなく社会教育団体としての市民吹奏楽団の設立に奔走され、国分寺市交響吹奏楽団になりました。その当時に、もとまち公民館が開設されることになり、公民館側のご厚意により活動の拠点として、以来30年利用させていただいています。

当団はその名の通り、楽器を演奏することを目的としております。年1回の自主公演を西国分寺のいずみホールで行い、春には武蔵国分寺万葉花まつり、秋には国分寺まつりでの演奏を中心として活動しています。

一昨年の演奏会で音楽をやっていてよかったと思うエピソードがあったので、紹介したいと思います。演奏会に来られたご高齢の方から



「耳が遠くなって音楽が聴けなくなってしまったが、今日は音楽が聞こえて久しぶりに楽しめました」というアンケートをいただきました。そして昨年の演奏会で、その

方はその後お亡くなりになったそうですが、一昨年一緒に来られたご親族の方から「音楽が聴けなくなった祖母があんなに喜んでいたことを思い出し、思わず涙が出ました」というアンケートをいただきました。

地域との交流

近年では地域の皆様との交流をもっと深めようという団の方針により市内の数校の小学校で出前演奏会を開催させていただいています。この出前演奏会は簡単な楽器の紹介を含めたもので、演奏終了後、実際に生徒の方々に楽器に触れてもらう体験コーナーを設け好評をいただいています。また昨年、開校30周年を迎

えた国分寺十小ではブラスバンド部が設立され、演奏指導に有志の団員が月1回伺っています。そして昨年の冬の出前演奏会ではブラスバンド部と私たちの団との合同演奏会を行い、さらに絆が深まり、いい経験になりました。

このように自分が好きな音楽を練習し、演奏することだけであるはずなのですが、音楽を通して、自分と人、団員同士の心のふれあいがあり、音楽性の理解、人間性の尊重へと話が大きくなります。それは地域との交流を演奏会や指導で深めることにより、同じような効果を生み出すのではないかと思います。人とのつながりが希薄になっているこの時代に、公民館を核にした人と人との付き合いは大切なものと考えています。私たちは公民館という場所を介して、団を存続させ、伝統を受け継ぎ、未来へとつないでいきたいと思っています。

公民館への期待

最後に、市外を見ても市民吹奏楽団を名乗って活動している団体は公民館など公共施設を拠点とし活動しています。多くの団員が演奏できるスペース、それに伴う所有楽器や楽譜の保管など、個人レベルではどうしても維持が不可能なことが多く、地域で活動していくということは公共施設の使用を避けては通れない状況であります。それだけに公民館の容量がものと言うと思えてします。時代の流れと共に趣味の多様性が出てきていますが、公民館は市民の多くのニーズに応えられるものであってほしいと願っています。もとまち公民館は残念ながら設備の老朽化が否めない部分があります。そのためにも30年を迎えたことを機に、大幅な改修などを行い、より利便性の高い施設となることを希望したいと思います。関係者の皆様におかれましては、ぜひご検討いただき、善処をお願いいたしまして、結びとさせていただきます。

もとまち公民館の30年

コーディネーター 倉持伸江

お三方のお話を伺いながら、私自身のもとま



ち公民館とのかかわりは年月でいったら浅いなということをつくづく痛感しました。私自身は東京学芸大学に来てまだ2年半で、もとまち公運審の委員としては昨年から関わらせていただ

きます。社会教育の研究に取り組む者にとっては、多摩地域の公民館活動は、ここを勉強しなければ社会教育を勉強したとは言えないくらい大きなものです。もとまち公民館の公運審委員になったときに、わくわくしたと同時に、身のひきしまる思いがしました。

住民参加で作られたもとまち公民館

国分寺市の中でももとまち公民館は、設立の経緯から特徴ある公民館だということをうかがい、勉強してきました。と、いうのはこの公民館は、もともと市民の要望で作られたものだそうなんです。この国分寺市南部の地域には市民が集える場所がなかった。昔から住んでいらした方、また新しく住民になった方々で、図書館・公民館を作ろうと「南部地区図書館・公民館作りの会」というのを昭和51年1月に結成し、市に趣意書を提案したり、住民の要望をアンケートにとったり、あるいは学習会を企画したりして公民館作りを提起していった。それだけでなく、提案が市に通り、公民館を作りましようとなった後も、住民が意見を言って公民館づくりに関わっていくということで、建設検討委員会の中に住民の方が参加されて公民館が建設されています。そういった意味ではもと

まち公民館は住民の要望や参加によって生まれ、それから30年間様々なグループが育ってきていて、地域での活動が行われてきた30年の歴史があるわけです。

岐路に立つ公民館

30年経った現在、新たな状況というのが生まれてきています。全国的にも地域で公民館がこれからどんな役割を果たしていくのかが問われています。公民館をめぐる状況は決して楽観的なものではないと思います。「公民館なんかいるのか」といわれる行政のトップの方もいらっしゃるわけで、じゃあ公民館が地域でどんな役割を果たすのか、あるいは公民館がここにあることで私たち住民にはどんな意味があって、どんな必要性があるのかということを改めて表に出していかなければいけないという段階にきていると思います。

今日はぜひここで、長年公民館で活動されてきた皆様自身の活動の体験、実践、積み重ねの中から、あるいは若い世代から、公民館にどういうことを望むのか、あるいは地域との関わりで、このもとまち、あるいは国分寺でどういうふうにまちづくりをしていくかのご意見を出していただき、もとまち公民館の次の10年間のためにどういうことが求められているかということを議論していけたらと思います。ぜひご意見やご提案を伺いたいと思います。

**国分寺によせる思い
これからの公民館に望むこと**

利用者・元公運審…この公民館では短歌と老人会でお世話になっています。倉持さんが言われましたように、このもとまち地区は特徴のあるところだと思います。今日のふれあいまつりは三団体で行われますが、私が携わっているさわ

やかプラザもとまちも、自ら議論し市と交渉しながら作って、住民が管理しているという環境を見ますと、住民が何らかの形で携わって、住民が動くというのがこの地域の特徴だと思います。



公民館で育つ

公民館からいろいろなグループ活動が出てきて、そこから育った人が地域の仕事をしているというのも関係があるような気がします。そういう意味では公民館の役割というのは地域のことを考えてやろうとしている人たちを現実的に育てているという、これが重要なことです。公民館が元気に存続するための条件は地域が公民館を支えるしかないと思うのです。

そういう意味では地域会議は、縦割りでいろいろしてきた組織が横にまとまろうという非常に大事な集まりと思っています。ただ今まで感じてきたことなのですが、この元町は古い人たちと新しい人たちがまだしっかり融合していないのではないか、と思うのです。公民館を利用している人は新しい人だと思います。そういう公民館をどういうふうに受け止めてこられたのか、小坂さんにお伺いしたいと思います。

小坂…若竹会というのがありますよね。70人くらいいるのかな、地元の人間だけじゃないんだよね。「10年住めば地元の人だよ」と私はよく言いますがけれど、そういった中で交流しています。新しく来た人になるだけ入ってもらって、この地域を守っていこうとやっています。

利用者・元公運審…これからの公民館のあり方として、楽しんだり、交流したりするだけではなく、同時に学習の機関であるということを決

して忘れてはいけないと思います。学習というのは、単に個人が知識を得るとか、賢くなるというだけではありません。公民館でもともと学ぶことによって豊かな地域とか、豊かな社会を作るためにとても役立つということをいろいろなところで感じています。そのためには、平等に使うために無料であること、学習を支えていく職員の存在、そういうところを大事に考えていかなければなりません。人生経験が豊かな方もたくさんいらっしゃいますが、その経験だけに頼って活動するのではなく、社会教育機関としての公民館でしっかりと学習して活動して、また学習して活動してということを繰り返していくことが大事だと考えています。

利用者・元公運審…これからの公民館はどういったことがいいのかという大きな課題があるわけですが、公民館が社会教育の機関ということは間違いございません。しかしこれが前に出過ぎてしまうと一部の人の場だと捉えられます。もとまち公民館は利用する人を増やしたいという大きな課題がありますが、時間をかけて挑戦していかなくていけないと思います。目的というのは公民館が地域づくりの核にならなければならないということで、街づくりの中で何ができるかということなのですね。

生活に密接な課題を

社会問題というところとわかったような、わからないようなものになってしまうので、大勢の人にわかりやすい表現で、今、町で抱えている課題は何かということ、コミュニティがどんどん薄くなり、無関心の人が多くなっていく中で、安心・安全、助け合えるような町、子どもとの交流、健康で文化的な町など重要な項目に対して、公民館の主催事業を考えてもらうことがこれからは大事になっていくんじゃないかと思います。

公民館は地域の横糸

公民館の機能は10年ごとに変わっていくというのはいい捉え方だと思います。地域の核として、具体的に問題を捉え、それぞれのグループをつなぎ合わせていく、公民館の活動グループだけでなく、自治会、老人会、いろいろな団体が一緒になって手をつないでいく、それが地域会議ですね。横糸をうまく通しながら、地域の力を使って、町づくりをやっていく、そうなってくると公民館の機能が一層生きてくるんじゃないか、同時に利用者も増えるんじゃないかと思うのです。公民館のイメージをこの辺で変えていくのがいいのではないかと思います。

一小校長…公民館も地域の核ですが、学校というのも地域の教育活動の核です。これから学校と公民館が連携を深めて、公民館の学習サークルの方々を学校にゲストティーチャーとして来ていただくということを計画的にやれば学校と公民館が密になって、地域の核としてやっていけるのではないかと考えています。少しその辺りを来年度から考えていきたいと思っています。

教育次長…倉持先生が公民館の置かれている立場は楽観的ではないとおっしゃいました。私もそう思っていますが、NPO法人の原さんの活動を側面から見させていただく立場でありましたが、「公民館と街づくりの協働」という新しい形がまさにあるんじゃないかと思っています。また小池さんの公民館を新しく建て直すということですが、建て直すことは可能かもしれませんが。しかし建て直すだけじゃダメなのではないか。それを継続して維持していくためにはお金がかかるわけですから。そのお金を全部行政が持つのかっていうところを、社会教育という論理だけで無料なのだというを本当に納得していただけるかということです。

公民館の今後

かつて行政と市民の関係は縦関係、要するに上から言われたことをやるという関係です。ところが次の時代になって、行政と市民の関係は逆転するような形になってきました。しかしそれだけじゃ違うのではないかということで、行政と市民の関係をもう一度考え直して、行政ができることと市民の皆さんにやっていただくこと、それをどうコラボレートしていくかということ、そこに新しい公民館の考えるべきものがあるんじゃないかと思います。そうすると公民館の未来はそんなに悲観的じゃないと考えます。もう一つ、公民館を建物として考えないで、機能として捉えてほしいのです。昔は子どもを育てるとか、高齢者の介護とかは家族や地域がやってくれた。しかしそれを全部行政がやらなきゃいけない時代になってきました。

公民館が、昔と同じような事を本当にしなくてはいけないのかを考えるべきだと思います。それがすべて有料論だということではありません。

元建設検討委員…コーディネーターの先生がもとまち公民館の建設までの過程をしっかりと勉強していただいたことをありがたいと思います。もとまち公民館・図書館の建設運動をする中で、私が学んだことは、何でもきちんとして要求して、行政のルートに載せてもらえばあとは自動的に行くのだということです。

生きてきた社会教育にかけたお金

私がPTAに参加していた当時、国分寺は社会教育にお金を使うから学校にお金が回らないのだと聞いてきました。30年経ってみると社会教育にお金をかけていたから、皆さんが自発的に集まって地域の核になるように、またNPO法人を作り上げていくような人材が育ってきたのだと思うのです。

国分寺は高齢者の平均年齢が高いのに寝たきりではなく皆さんが生き生きとしていらっしゃるというのは医療費の抑制になり、社会教育にかける予算が生きているのだと思います。予算要求はしなければ、今日のこういう活発なものはなかったかなと思います。30年をふり返って、こんなに皆さんが力を合わせていい地域を作ってきたのだなっていうことを、今日はしみじみと感じました。

利用者…公民館には30年間お世話になったように思います。はじめの10年間は学習の時代でした。講師代も会場費も払っていない。公民館の費用を出しているのは結局市民なのです。そのときに、勉強したものは地域に返さなければならないのだということを深く心に刻みました。

それから高齢者の福祉について勉強しました。仲間と一緒に施設に見学に行き、国分寺の福祉は貧しいことを知りました。近隣の市は民生費が一番多いのですが、国分寺はそのころ一番多かったのは土木費でした。民生費と教育費はほんとにわずかでした。それでいろんな働きをしました。今は国分寺も民生費が一番になっています。やはり市民が勉強して市にいろんな働きかけをしていったからそういうことになったと思います。

市議会議員…土木費の問題が出ましたので、そこだけ議員としてご説明します。国分寺の土木費が多かったのは下水が入ったことです。皆さんのお役に立つ予算として使われたことをご理解いただきたいと思います。

保育者…公民館30年のうち、最後の5～6年しか関わっていないのですが、小学校でPTAに足を突っ込んでから、大先輩に声をかけていただいて公民館活動を始めました。小坂さんの

お話の中で昔の青年たちが一生懸命国分寺の街づくりをしていらした姿とか、原さんのお話の中では63歳で若者ですよと言われて仕事がたくさん回ってきたとかを伺っていると、今公民館で活躍している世代というのは若干高いのかなというふうに思います。そのと



ころが活発な公民館活動の中では一番不安なところではないかと感じています。

そういう中で私たち保育者は、若いお母さんたちが気持ちよく生き生きと活動できるように、子どもたちを2時間預かって、逆に私たちも子どもたちと楽しく過ごすということで、地域が少しずつ若返るようなつなぎの役目を果たしつつ、大先輩から教えていただいた活動を一生懸命次の世代につないでいきたいと思えます。

学芸大学生…留学生です。中国から日本に来てから6年目に入ります。日本に来て2年間は本多公民館で日本語を勉強しました。東京学芸大学には生涯学習という学科があり、社会教育に関わっています。最初に入った時は何を勉強するのかわかりませんでした。3年生になって倉持先生の社会教育のゼミでお世話になっています。去年、もとまち公民館で講座を開きました。5人で講座を考えて、ターゲットとしては若い世代でしたが、私たちから見れば今の利用者は年配の人が多いい。若い人に来てほしい。なぜ若い人が来ないのか、公民館のよさがわからないのではないかと私は思います。

利用者の一人として、若者の一人として、公民館は社会教育施設としての役割を果たしてほしい。来年4月には会社に入って働きますが、そのときはまた公民館の活動に参加したい。公

民館と会社、公民館と大学を何らかの形で取り入れてほしいという要望があります。

今後の展望

倉持…ここで活動してきた方々だからこそその率直なこれからの課題、目標が見えてきたような気がします。地域会議に象徴されるようなこと、ここでの学習がどういうふうに関域での活動につながっていくかということ、学ぶだけではなく活動し、活動したことを学び直して、次の世代につなげていくということ、行政や学校や福祉やいろいろな組織や施設と結びついていくことなど、つながりということがキーワードとしていろいろの方から出ていましたが、つながりということをどう具体的に作って行くのが次の10年間の私の宿題になるのかもしれない。

学生から、企業や大学とのつながりということが出ていました。今まであまり公民館とのつながりのなかった人々や施設や団体、また公民館ができるもっと前から活動してきた地元の人たちとどういうふうにつながりあえるのかということが大きな課題になってきます。それはつなぎの役目という言葉が出ていましたが、つなぎの役目を担うのは、公民館で学んできた人々であり、地域の結び目を作っていくことが重要になってくると思います。

そのためにも職員の役割も重要になってくるわけです。行政とどういうふうに対等にやりあっていくかということも、私たちの学んでいかななくてはならないことかもしれません。宿題がたくさんあるようですが、この会がその第一歩になったらいいな、私も微力ながらそこに関わっていただけたらいいなと思いました。



開会の辞を行う 30周年記念事業実行委員長

事業写真から

18年度以前

16年度 ガラス工芸



17年度 韓国家庭料理に挑戦



18年度 盆栽講座



18年度
ピラティスマットエクササイズ



19年度

ふれあい散策
御岳溪谷



子ども冒険クラブ

初心者料理で地域の仲間作り



高齢者問題講座
叙情歌を楽しむ

20年度

ふれあい散策
天文台を見学する



家族を考える講座

季節の簡単手作りお菓子



男声合唱講座

利用者アンケートから“公民館と私”

開館記念行事に参加された方にアンケートをいただきました。

私たち、レザークラフト、かえでグループは実習室を使っています(土曜日午後)。28年の長い付き合いです。語り、手を動かし、お茶をしながら、財布、バックなど色々作って楽しんでいるグループです。これからもよろしく!! (南町 サクちゃん)

国分寺にきて27年。もとまち公民館が30周年と聞き、共に歩んできたのだと感慨ひとしおです。「忘れな草」グループに入れていただき10年、歌を通して色々な人と出会い今も交流が続いています。今は、「未完成」グループに入って10年、いつまでも元気でいられるよう土曜の午前中に公民館で体を動かしています。当初、職員としていらした百瀬さんも今は館長として戻られ30代だった私も60代。いつもそこに行けば誰かに会えるという私にとって心のオアシスです。また、地域会議のメンバーとしてお互いの情報を持ち寄り、よりよい地域を作るために参加させていただいています。(岡田倭子さん)

もとまち
公民館

講座参加者ですが、『かけがえない人のために』に出席しました。前半4回は出席したのですが、後半の2回は欠席しました。(時間的に子どもが学校から帰ってくるし、夏休みに入ったため)もったいないな~まだ聞きたかったのに~と思いました。午前10時から12時までの講座をもっと増やしてほしいなと思っています。また、こういった講座は、公民館ならではの事、本当に感謝しています。(よこちゃん)

昭和55年夏、もとまち公民館の講座『老後を考える』に参加したのが公民館との関わりの始まりでした。そして老後に一番大事なことは健康であるという結論に達し、立ち上げたのが「未完成」グループです。良き指導者とたくさんの会員にめぐまれ、今年で29年目に入りました。会員の年齢も上がってきていますが、いつまでも元気でいられるよう週に一度、体を動かしています。公民館を利用できることに感謝をしておりますが何しろ30年たつと設備が古く、また時代に合わなくなってきました。少しずつでも改善されることを望みます。(竹中美美代さん)

もう、もとまち公民館が30周年？

昭和48年12月、図書館が無かったので、子ども達が本に親しんでもらいたいと一小PTAの仲間たちと、我が家で文庫の産声を上げた。自治会の協力も得られて、半年後、平安神社に移り、大勢の子ども達で賑わった。それから、図書館・公民館作り運動が始まり、文庫から3名が検討委員会に参加した。念願の図書館・公民館が開館し、もう文庫は役目を果たした？と思いきや、幼い子は一人では行けないから文庫は存続して欲しいと、若いお母さんの願い。図書館が近くにあっても、子ども達に魅力ある文庫として工作を取り入れた。もう30年余、本に親しんでもらい、手や頭を使う工作を工夫し、季節の行事毎に手作りのお楽しみ。スタッフは世代交代しても年季が入り、子どもと共に成長し、文庫を卒業しても公民館や地域で目覚ましい活躍ぶりに嬉しくなる。読書との関わりながら図書館だけでなく、併設のおかげで公民館と共に育ってきた。公民館まつりでは、子どもたちが劇に出演したり、最近ではクイズラリーで人気を呼んでいる等、皆さんの協力を仰ぎながら地域に根を下ろしている。公民館と図書館とが、連携・協力し合って発展することを願いたい。

(東元町文庫 松田節子さん)



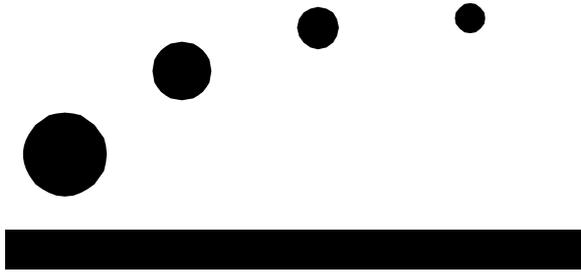
もとまち
公民館

～もとまち公民館30周年記念ふれあいまつりについて～

色々なグループの活躍を拝見して楽しいひとときを過ごすことができました。「3Rの会」のゴミに関する活動はとても有意義と思います。ただ少し地味だったので、もう少し目立つようにしてほしかったと残念に思います。全体的に展示物より食べ物コーナーに人気があったようです。

(書道愛好会 S.Kさん)

公民館を愛する皆様の声が聞こえてきました。
これからも、もとまち公民館を、よろしくお願いします。



Ⅲ 国分人

もとまち人

国分人 もとまち人

個性豊かに活動している方々をご紹介します

倒れている人がいたらすぐに助けましょう

～いつも背中に救命グッズ～

南町 長崎 弘

人様のお世話になり元気で年を重ねて米寿になりました。お世話になった社会にかやれることはないかなと、心していました。

3年前、消防署で応急手当普及員の講習会が行われましたので、受講し、認定証をいただきました。戦時中6年半、日本軍の衛生兵だったことと、米軍救急車運転手10年余の経験を活かそうと立川防災館で救急法の訓練を受けていたので、それをより確実にしようと思って受けました。

いただいた応急手当普及員認定証に恥じない行動をしようと、2か月に一度位防災館に行っています。体に教えておくつもりです。

この間、スポーツセンターで400人の人がラジオ体操をしている最中に心臓の病気を持った一人が倒れました。救急車が来るまで4人の人が交互に救急処置をやりました。私は救急車を呼ぶことを頼み、自分でAEDを事務所から持ってきて、心臓マッサージをやりました（いつも行く所は前もってAEDのある所を確認しておきます）。

一度やると、後は心も体もすぐやれる態勢になれるようです。人の役に立てればと、三角巾とレサコ（人工呼吸用マスク）をいつも持ち歩いています。

最後にみなさんをお願いします。救急訓練を受けて人助けをしてください。

避難小屋の思い出

東元町 佐々木 健

ゴールデンウィーク、前穂北尾根から奥穂を抜けて穂高岳山荘に宿泊、翌日槍ガ岳を目指すが吹雪かれて南岳避難小屋を探し一夜を過ごす。

無人の小屋に男二人、装備類は登攀具一式と、ヘッドランプ、ツェルト（袋状の簡易テント）、ガソリンコンロ、ガソリン1リットルくらい、魔法瓶。行動食のキャンディ類、食料なし、寝袋なし。夕食は食品探しから始めなければならない。小屋の屋根裏で保管米を見つけ、ご飯を炊き、残置ごみの中から醤油と缶詰の空缶を見つけ、食

器とし醤油をかけて食べる。

外は吹雪いている。衣類を重ね着しザックをマットにし、ツェルトをかけて寝るが寒くて1時間と眠れない。湯を沸かし飲んで体が温まっている間に寝るの繰り返しで朝を迎える。外のテントの韓国登山隊も寒さに耐えられず小屋に避難しテントを張っていた。



朝、起きると防寒着と中間着の間に氷がびっしり張り付き、履いて寝た登山靴もガチガチ硬くなっている。登山靴をコンロで温め柔らかくして、靴紐を締め直す。韓国パーティーの朝食をじっと見ていたら、インスタントラーメンを1個くれた。そのおいしいことといたら2個目の催促もぐつとこらえ、槍ガ岳に向かった。

老いて元気に毎日1万歩

南町 田上 嘉秋

昭和58年、家内に先立たれた。68才だった。翌年、会社も退職して一老人となった。子どもたちの世話になってもよいが、それではぼけると思っ、ひとりでやっていける時まで独身生活をやろうと決心した。

今まで会社関係の人と付きあっていたがこれからは地域社会の人と懇意にならなくてはいけないと思っ、当時住んでいた中野区の寿大学に入学する手続をして、毎週一回午前中、講師の話聞いて昼食を区役所付近の店で済ました。午後は趣味の事やって出席者の懇親を深めて二年間を過ごした。さらに一カ年大学院の授業を受けた。

この講座の有志数名と少し歩いてみようと思っ、東海道五十三次の旧街道を歩き始めた。日本橋から鶴見まで行って帰り、一週間後に鶴見一戸塚と歩き、箱根の山を越えてからは一泊または二泊して次回に継げて、25日間で京都三條大橋に到着した。

1990年からは毎日1万歩を歩く計画をして、毎日の散歩を記録することにした。1万歩歩くのは1時間30分位かかるので、午前中に50分、午後40分と二回に分けて歩いた。歩き出して15年になったので、「新老人の会」を主催しておられる聖路加病院の日野原重明先生に見てもらったら、このデータは遺伝子の研究の参考になると言われたので、コピーを作って提供した。

本年3月19日、自宅の玄関で転倒して、大腿骨を骨折して救急車で入院して手術をし、三カ月リハビリをやって歩けるようになった。

もう92才になって、毎日1万歩は無理と思われる。しかし老後の健康に歩くことを続けて行きたい。



三大ピラミッドの撮影に挑戦して心の殻を破る

～ 全盲のカメラマン ～

東元町 伊藤 邦明

青い空、三大ピラミッドを見下ろして写真を写していた。大空に解き放たれ心で写せるようになったのはつい先程のことである。最初は、'94年に父の写真を真似て妻とラクダを写した。

'90年に怪我をして見えなくなった私を手引きしてくれた妻に感謝をしつつ、私は満足をしていた。地球の裏側まで来て、これが最初で最後であると思った。

再びピースボートの地球一周の船旅に乗り、600人あまりの仲間とサハラ砂漠に来ている。朝から別の日本人のバスと何台も出会った。そのほとんどの人たちは飛行機で来ていた。

なーんだ、来たいと思えばいつでも来られるではないか、ハッと気がついた。3年前にこれが最初で最後だと思っていたのは、何だったのか？自由であるはずの心に壁を作っていたのは自分自身の心ではないのか？心を閉じ込めていた厚い殻が破れて、解放された気分になれた。見えなくても心は自由である。

人には、無限の可能性のあることを感じて写すこの頃である。



国分寺第一小学校サッカーの概要

～少年サッカーの指導をして～

東元町 岡田 光司

今、子どもたちが安心して遊べる所は校庭しかないのが実情です。小学生サッカーは、まず外で身体を動かして遊ぶ＝「楽しい」から始めます。極力コーチからの押しつけは避けています。「ああしろ」「こうしろ」「それは駄目」と制約が多くては楽しくありません。ですが、「楽しく」＝「自由勝手に」とは違います。集団としての約束事は守ってもらいます。また、低学年の頃は、集中する時間が少ない子も多く見られます。長い目で見守ることにしています。

サッカーは、「こうすればこうなる」という事は少なく、選手の瞬間的判断の多いスポーツだと思います。大人ではなくしてしまったすばらしい感性を子どもたちは持っていますから。

第1回のもとまち公民館ファミリー運動会のPK合戦では、お年の方でもゴールしたときの喜びはすばらしいものでした。

もとまち公民館と私

～ 老人給食からさわやかなの設立まで ～

東元町 神原 照子

公民館の現代史講座で川村善二郎先生から「人は生まれながら基本的人権を持っている」こと教えていただきました。これは私の考え方の基本になりました。

公民館の高齢者講座で近隣の市の高齢者福祉の実践例を知り、市のご協力を頂いて茶話会を開きましたのが、数ヶ月後には市全体の高齢者地域交流会食会になりました。

高齢者講座の仲間「麦の会」を作りました。高齢者福祉施設の見学や、話し合いの中で市の高齢者施設の乏しいこと、特に中央線から南には何もない事を痛感しました。地域の自治会や老人会に呼びかけて、「当地に高齢者福祉施設の建設の要望書」を提出しました。5年後に「さわやかプラザもとまち」が東元町に建設されました。「麦の会」の仲間は忙しくなりそちらへ吸収され解散しました。



退職後 30 年、元気に生き来られたのも、もとまち公民館のおかげと心からお礼を申し上げます。

小学校でのうどん作り

～ゲストティーチャーとして～

東元町 廣田 廣

うどん作りのきっかけは、1999年公民館の「定年後を楽しむ講座」で手打ちめんを作ったことです。講座終了後、定楽会を立ち上げ、国分寺の名店「ふるさと」の元店主の下にめん作りに励み、素人なりに打てるようになりました。

2003年に、第一小学校から6年生の卒業記念に家庭科実習で手打ちうどんを作りたいという要請が公民館にあり、定楽会が紹介されました。卒業を間近に控えた2月に定楽会の有志を中心にゲストティーチャーとして参加、ふるさとの味「国分寺うどん」を児童と一緒に作りました。以後、恒例の行事となり、毎年参加しています。



包丁の使い方、ゆでるときの熱湯など気を使うこともありますが、足で踏んでこねるときなど和気あいあいの雰囲気、楽しく作っています。うどん粉の残りでハート型や星型を作り、これは自分が食べるんだという発想もあり、給食と同時に食べるにもかわらず、毎回完食するには感激です。

自分で作り食べるということは大切です。地域の食文化を継承し、卒業後、いつか作ってくれたら幸いです。

四小ゲストティーチャー体験

～カワニナ飼育の縁でゲストティーチャーを～

東元町 牧野 勝

公民館を拠点に活動している「蛭よもう一度の会」が、4年前から小学生にカワニナを育てていただくことで第四・第一小学校との関係が続いています。

ある時、そこで知り合った第四小学校の先生から総合学習のゲストティーチャーの依頼がありました。対象は3年生、テーマ「むかしの事を知る：遊び・スポーツ、乗り物、生活」でした。

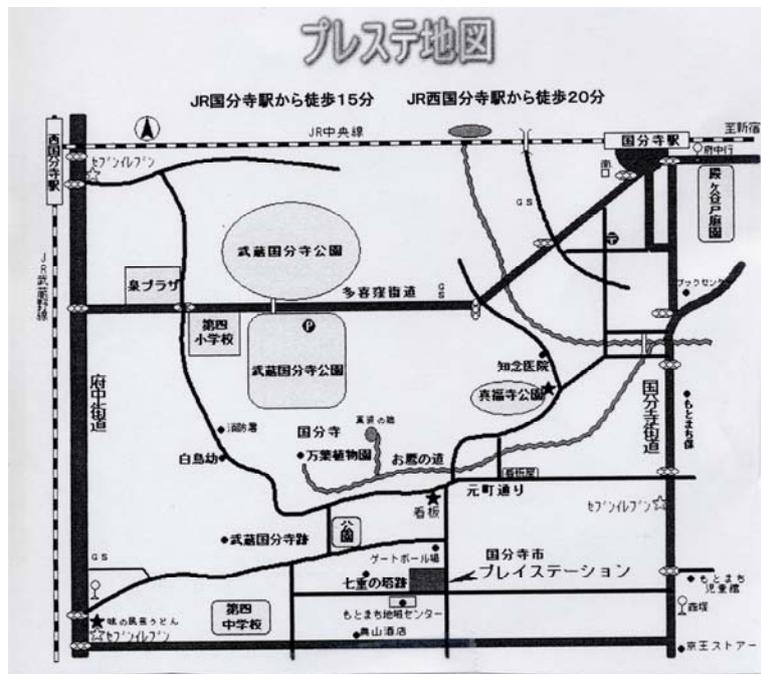
「蛭よもう一度の会」には多士済々の会員が20数名おり、大概のことなら応じる事ができるので、学校からの依頼は即OKする。ふさわしい方を担当に決めて、下準備をし、先生との調整をして初体験の本番をこなしました。その後、3年生は毎年、5・6年生の総合学習にも依頼され対応しています。

人生の先輩としての知識、経験を活かした異世代交流を楽しんでいます。

「国分寺市プレイステーション」…もとまちの地に生まれて

NPO法人 冒険遊び場の会 代表理事 武藤 陽子

国分寺市西元町に冒険遊び場「国分寺市プレイステーション」ができて、もう26年になる。財団法人プレイスクール協会が、東京に冒険遊び場の土地を求めて、この国分寺の土地にたどり着き、地主さんにお借りすることになったのである。もとまち公民館とほぼ同じ位の年月が経つ。その当時、小学生だった子どもたちは、今ではもう30才になり、今度は自分の子どもを連れて遊びに来ている人もいる。また、別の土地に移り住み、国分寺の近くに来たと言って、懐かしくなり今でもプレイステーションを訪れてきてくれる人もいる。そういう私も、このプレイステーションで母親として我が子を育てた一人でもある。赤ちゃんだった子ども、もう成人になってしまった。プレイステーションで子育てをした人もとても多いと思う。そして、小学生になり、このプレイステーションで遊んだ子どもたちも数多いことであろう。その当時から変わらない“土”とふれあい、どろんこになって遊び、火の熱さ、怖さ、神秘さを肌で感じ、いろいろな人たちとの関わりの中で遊んだ日々。子どもたちにとって、とても貴重な時間となり大切な思い出となっていることであろう。



今、こういう冒険遊び場がほしい、作りたいと言って、全国各地から視察や見学にやってくる。遠くは、北海道、四国、九州からもやってくる。来週は、鹿児島県薩摩市からもやってくる。自然にとっても恵まれた地域からやってくるのである。東京に住む私たちからすれば、「自然豊かなところに、なんで冒険遊び場？」と不思議に思えてしまうのだが、話をしてみると、いくら自然があっても、今の子どもたちは遊ばないという。自然豊かだが、近所に子どもたちがいない地域も多いので、かえって、家に帰るとテレビゲームをすることが多いのだそうだ。土があり、どろんこになり、そこに子どもたちがいて、プレイリーダーがいて、子どもたちが自分の力で考え、遊びを展開できる場所。いろいろなチャレンジができる場所。その遊び場が、この国分寺のもとまち地域にあることを嬉しく思う。同じもとまち地域に拠点を構えている人間として、これからも、もとまち公民館に関わる人たちとの関わり、地域の人たちとの関わりを大切にしていきたいと考えている。そして、私たちは、地域の子どものために、この場所を大切にしていきたいと考えている。

開かれた教育委員会を願う

～ 国分寺市、初の女性教育委員として～

東元町 三浦 郁子

私の子育てに多忙だった 1960 年代の日本は高度経済成長期で、確かに物は豊かになったが、生活が向上したという充実感はなく、果たしてこんな生き方でいいのだろうかと自問する毎日を送っていた。1970 年代になって、本多公民館の婦人学級に参加したのをきっかけに社会教育にひきつけられ、公民館で学びながら P T A 活動に参加し、地域社会とのつながりを求め生活をしてきたといえる。自分は微力でも、多くの人と協力し合うことでいくつかの目的を達成することも出来た。例えば、もとまち公民館の住民参加による建設運動や P 連での都立高校誘致運動等、さまざまな教育の課題に取り組むことが出来たと思っている。

そして、国分寺市政に女性の持つパワーを活かせないかと市民運動が起こり、さまざまな^{うよきよくせつ}紆余曲折の結果、1990 年 3 月、全く予期してなかったことが現実となり、私が初の女性教育委員に選ばれた。果たしてこの重責に耐えられるかと悩んだが、市民の声を直接教育行政に伝える機会を与えられたと気を引き締めたことを思い出す。

三期 1 2 年の任期を振り返って、教育全般に関して多くのことを学ぶことが出来たことを何より感謝している。教育委員会のもとより学校教育の重要性を主眼としているが、私の経験からそれと同等に社会教育の充実にも重点を置いて市民との対話を重視するようにと機会あるたびに発言してきた。

任期中に、議事録が作られるようになりその公開が実現したことは画期的といえよう。また、私の後にも女性教育委員が常に 2 名任命され、市民の立場に立って発言されている様子を聞き、今後も開かれた教育委員会が続くものと心から期待している。

妻に勧められて

～ 逆転人生 ～

楽友会 大山 勝美

30周年記念おめでとうございます。恥ずかしい話ですが、公民館は災害の時の避難場所・選挙の投票所・公の会議等に使用するところと思い、関心もないまま、図書館に行くが公民館には入った事はありませんでした。

定年後、妻に勧められて、もとまち公民館の「地域を知る実践講座」に参加して、先ず国分寺の歴史・国分寺史跡見学等を学び、利用者の体験談で「定年後のパワーを社会貢献に」「仲間づくり・地域づくり」「市民防災学校」「ボランティア活動入門」をはじめ公民館関係の「美術散歩」「ふれあい散策」等の話を聞くうちに、生き生きと活躍をしている方々に感動しました。講座終了後、参加者全員一致で新しいグループ「楽友会」をたちあげました。私の第二の人生のスタートです。

月日がたつに従って知人・仲間ができ、輪が広がり、次々と興味あるグループに参加。国分寺市民防災まちづくり学校で学び、地元の自治会に世話人として声を掛けられ祭・盆踊り・防災・防犯や登校する小学生の見守り、雨の日も決まった時間に家を出て子ども達に大きな声で挨拶をする毎日、身体の中の悪い物が外に出るような気がします。健康体で新しいことに挑戦しようと思っています。

毎日の予定表が埋まって行くと年齢が逆転するような気がします。これから、「人生の本番」。

公民館は私の人生の案内人です。

子どものころにもどりながら

東元町 宮川 ひろ

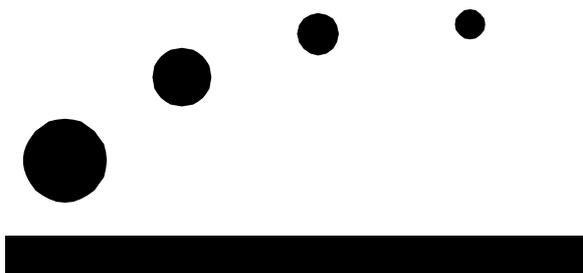
私は絵本も童話もない山の村に生まれ、そこで育ちました。いろり端に寄ってくるおじいやおばあの話聞くのが好きな子だったような気がします。それが私が読んできた童話だったのかもかもしれません。

---豆が月夜にたったときゃあ、あわてたぜ。いろりの灰をすくって行って、葉っぱの上からばさばさとまいたとも。灰が生き返らせてくれてさあ、ありがたかったぜ---と、となりのおばあは語るのです。

「月夜にたつ」と言うことは、大豆の葉が黄色くなって弱っていることをいいました。土にこやし不足になって、あえいでいる様子をいうのです。灰の力で大豆の葉はほんの数日で、つややかな緑をよみがえらせてくれるのです。昔話の「花さかじい」は農民のこんなくらしのなかから、生まれてきた話だったのでしょいか。そんなことを思ったのは、おとなになってからでしたが……。

私はそんな子ども時代をなぞり直すように子どもの目を通して、おとなを書いているのかもかもしれません。子ども読者の心にずっと残ってくれるような、おとなの生きようを書きたいと思います。いろり端のおばあになっていい話を語りたくとも願っております。

(編集部員注：宮川ひろさんは 児童文学作家として、子どもとその周りの大人を温かい視線で描き続けています)



IV 記録

1. もとまち公民館運営審議会
2. もとまち公民館事業

1. もとまち公民館公民館運営審議会

(1) 公民館運営審議会答申など

期	内 容	年 月
第2期	答申 もとまち公民館の会場利用のあり方について	1982年12月
第3期	提言 もとまち公民館の事業の今後のあり方について	1985年2月
第4期	答申 I 住民参加と公民館事業 II 婦人の学習と公民館保育	1987年1月
第5期	もとまち公民館の施設・備品の改善に関する要望書	1988年11月
第6期	もとまち公民館職員増員に関する要望書	1989年10月
第6期	もとまち公民館保育室予算の見積書通りの実現に関する要望書	1989年10月
第6期	もとまち公民館長異動についての意見書	1990年4月
第6期	答申 I 生涯学習社会における もとまち公民館の役割と住民主体の公民館運営 II 職員体制の課題	1991年3月
第7期	もとまち公民館館長異動に関する意見書	1993年3月
第8期	もとまち公民館の利用に関するアンケートと集計の分析	1995年4月
第9期	国分寺市行政改革検討委員会中間答申に関する意見書	1996年12月
第10期	国分寺市行政改革推進についての答申に関する要望書	1998年1月
第11期	答申 今後10年間の目標と展望づくりのために 社会が大きく変化する中で、今後、地域住民や利用者にとってより身近な施設になるために、もとまち公民館が果たす役割と課題	2001年4月
第11期	第12期公運審委員へのご要望	2001年5月
第12期	館長人事に関する要望書	2002年3月
第12期	第13期公運審委員への要望	2002年5月
第13期	第14期への申し送り事項	2005年4月
第14期	答申 公民館の利用者層の拡大について	2007年3月

(2) 公民館運営審議会委員 在職一覧

◎=委員長 ○=副委員長

	第 11 期		第 12 期	第 13 期	第 14 期	第 15 期
任期	99.5～01.4		01.5～03.4	03.5～05.4	05.5～07.4	07.5～09.4
(学) 1号委員 校長)	吉田二三夫 (四中校長)	「国分寺市立公民館設置及び管理に関する条例」施行により委員区分なくなる	荒井容子 (法政大学)	荒井容子 (法政大学) 04.4～ 片岡 了 (早稲田大学)	井上安悦 (四中校長)	荒田滋子 (講座参加者)
(学) 2号委員 団体代表)	◎塩川比登志 (事業参加者)		◎井上四郎 (東元町 一丁目自治会)	◎井上四郎 (東元町 一丁目自治会)	荒田滋子 (一小PTA)	○伊勢修喜 (利用者)
	永澤昭子 (JA女性部)		尾作義明 (一小PTA)	大高智美 (利用者)	◎大高智美 (利用者)	倉持伸江 (東京学芸大学)
	野田奈加子 (四小PTA)		○小峰義夫 (定楽会)	○小峰義夫 (定楽会)	伊勢修喜 (利用者)	島田恵子 (四小PTA)
	○芳賀希夫 (あけぼの短歌会)		前田榮吉 (一小校長)	西本一枝 (東元町文庫)	○廣田 廣 (定楽会)	◎廣田 廣 (定楽会)
	溝口保憲 (リオン労組)		村田悦子 (きしゃぼっぽ)	柳浦明子 (四中PTA)	石井トシ子 (TAMARIBA)	森 孝 08.4～ 伊藤徳平 (一小校長)
	柳瀬紀久子 (事業参加者)		柳瀬紀久子 (事業参加者)	若杉 隆 04.4～ 前田榮吉 (四小校長)	片岡 了 (早稲田大学)	横倉 節 (利用者)
(学) 3号委員 識経験者)	国司 真 (五島 プラネタリウム)	※ 2000(平成12)年4月、「国分寺市公民館設置及び監理に関する条例」改正により公民館運営審議会委員の定数は各公民館7人となった				

2. もとまち公民館事業

(1) 主催事業一覧

1999 (平成 11) 年度

無農薬で野菜を作る講座	4～3月
美術講座 <初めての人の骨董入門>	4～6月
女性問題ゼミナール <地域で楽しい子育てを>	5～7月
定年後を楽しむ講座	5～8月
母と子の教室 <深呼吸して 子育て自分育て>	9～3月
介護保険講座 <地域から考える介護保険>	11～12月
現代史講座 <これからの日本外交を考える>	1～3月
季節を楽しむ講座 <月見だんご・雑煮・うどん>	9・12・2月
シネマクラブ <執念 茶館 蟹工船 ほか>	偶数月
地域で平和について考える集い <21世紀を託す子どもたちのために>	4月
東京探訪 <多摩ニュータウンと都立大学>	5月
美術散歩 <朝倉彫塑館・BATHHOUSE・国立博物館>	3月
文化のつどい <指笛コンサート>	3月
染色ワークショップ	3月
ふれあいまつり こどもまつり	10月

2000 (平成 12) 年度

無農薬で野菜を作る講座	4～3月
能・狂言入門	4～6月
ガーデニング入門	5～7月
コミュニケーション講座 <安心をうみだすコミュニケーション>	6～7月
母と子の教室 1 <リラックスできる子育て>	5～7月
母と子の教室 2 <深呼吸して 子育て・自分育て>	9～3月
やさしい年金講座	11～12月
国際関係講座 <国連と日本外交>	2～3月
公民館を考える講座 <21世紀の人づくり街づくり>	2～3月
季節を楽しむ講座 <まんじゅう うどん うど>	5・10・3月
もとまち工房 <タペストリー・クッキー>	9～10月
シネマクラブ <護国八万大蔵経 青い凧 また逢う日まで ほか>	偶数月
地域で平和について考える集い <憲法改正問題を考える>	4月
東京探訪 <光が丘ニュータウン>	6月
美術散歩 <谷中から上野へ 三井文庫別館>	6・2月
ふれあいまつり こどもまつり	11月

2001 (平成 13) 年度

無農薬で野菜を作る講座	4～3月
講座「茶の湯」文化入門	4～6月
簿記3級実務講座	5～10月
IT講習会	7月

高齢者健康づくり出前講座	7～12月
コミュニケーション講座 <自分自身の再発見に向けて>	9月
母と子の教室 <リラックスして子育て・自分育て>	9～3月
水と緑のまちづくり講座 <協働で水と緑を守る>	10～3月
国際関係講座 <アメリカ同時多発テロと中東問題>	2～3月
ワールドカップを2倍楽しむヤングサロン	2～3月
季節を楽しむ講座 <まんじゅう さつまいも料理>	7・11月
シネマクラブ <黄昏 春桃 キューポラのある街 ほか>	偶数月
地域で平和について考える集い <IT革命の光と影>	4月
もとまちお楽しみ劇場	3月
ふれあいまつり・もとまち	10月

2002（平成14）年度

高齢者健康づくり教室	4～6月
簿記3級実務講座	4～10月
無農薬で野菜を作る講座	5～3月
楽しいペーパークラフト1・2	6～7月
水と緑の講座 <雑木林で遊び雑木林を守る>	6～3月
水と緑の講座・子ども冒険クラブ <森へ行こう>	7～2月
子どもパソコン教室1～4	9～2月
コミュニケーション講座 <お互いの魅力を引き出すコミュニケーション>	10～12月
幼い子のいる女性のための教室 <リラックスして子育て・自分育て>	10～3月
国際関係講座 <中国と北朝鮮>	1～2月
講座・地域と暮らしと公民館 <心と体 ともに健康に暮らすために>	2月
シネマクラブ <DRUG イラン式離婚狂想曲 ほか>	偶数月
シネマサロン	奇数月
地域で平和について考える集い<21世紀日本の再生？政治、経済の行方>	4月
サッカーワールドカップ <Lホールで日本チームを応援しよう>	6月
おたのしみ週間 <子ども映画とふれあい広場>	7月
ふれあいまつり・もとまち	10月

2003（平成15）年度

無農薬で野菜を作る講座	4～3月
のびのび健康教室 <高齢者対象>	5～7月
水と緑の講座 <武蔵野の自然と共に生きる>	6～3月
FMもとまち放送	6～3月
子ども陶芸教室	7～8月
幼い子のいる女性のための教室 <今、そしてこれからの見つめて>	9～3月
教育講座 <学ぶってどういうこと>	9～3月
園芸講座 <花とくらす>	9・3月
パソコン初心者講習会	10～11月
水と緑の講座・子ども冒険クラブ <もとまちの財宝を探せ！>	12～2月
国際関係講座 <石油をめぐる国際関係>	1～2月
講座 親と子のエンジョイライフ	1～3月

もとまち防災・救急教室	3月
シネマクラブ <太陽はどこに? ほか>	偶数月
シネマサロン	奇数月
地域で平和について考える集い <21世紀 日本の再生? PART II>	4月
講演会 <水辺の生き物と人間社会>	10月
ふれあい散策 <小金井公園 吉野梅郷>	9・3月
もとまち美術散歩 <五島美術館 他>	10・3月
ふれあいまつり・もとまち	10月
公民館・図書館開館25周年記念映画祭	9月

2004 (平成16) 年度

無農薬で野菜を作る講座	4~3月
FMもとまち放送局(生放送と企画会議)	4~3月
フラワーアレンジメントを楽しむ	5~10月
写真講座	6~7月
水と緑の講座 <山仕事を楽しみ、里山を守る>	6~3月
水と緑の講座・こども冒険クラブ <カブト虫めっけ! 他>	7・9月
子どもガラス工芸教室	7~8月
幼い子のいる女性のための教室 <親になるってどういうこと>	9~3月
教育講座 <地域で子どもを育てる>	11~3月
パソコン初心者講習会 (18コース×各4人)	10~11月
健康講座 高齢者ダンベル体操 <心のたるみは体のたるみ>	10~11月
国際経済講座 <日本と世界経済>	2~3月
地域と暮らしと公民館	2~3月
防災・救急教室	1月
ふれあい散策 <立川防災館 新選組のふるさと 越生梅林>	5・10・3月
もとまち美術散歩 <山種美術館他 庭園美術館他>	6・11月
シネマクラブ上映会 <戦場のピアニスト 他6本>	偶数月・3月
シネマサロン <イタリアネオリアリズムについて 他>	奇数月
地域で平和について考える集い <教育の再生はそこからしか始まらない>	4月
ふれあいまつり もとまち	10月

2005 (平成17) 年度

無農薬で野菜を作る講座	4~3月
FMもとまち放送局	4~3月
演劇入門講座<演劇体験・俳優修行>	5~7月
高齢者問題講座<地域でいきいきと生きるために>	7~3月
水と緑の講座 <アウトドアを楽しむ、里山を守る>	6~3月
水と緑の子ども冒険クラブ <この虫、なにムシ>	7月
幼い子のいる女性のための教室 <自分らしい子育てスタイルを仲間と共にみつけよう>	9~3月
第二の人生を生きる <地域デビューのために>	1~3月
韓国家庭料理に挑戦	1~2月
木彫りのカモを作ろう	2~3月
防災・救急教室 <地域歩き 立川防災館>	8・1月

国際関係講座 <イラク・アメリカと中国 他>	7・12・3月
シネマクラブ <ナビィの恋 他>	偶数月
シネマサロン	奇数月
地域で平和について考える集い <世界情勢と日本の進路>	5月
ふれあい散策 <塩船観音寺のつつじ 他>	5・9月
もとまち美術散歩 <旧岩崎邸庭園 他>	7・11月
地域会議	3月
ふれあいまつり・もとまち	10月

2006（平成18）年度

無農薬で野菜を作る講座	4～3月
初心者料理教室	6～7月
水と緑の講座 <アウトドアを楽しみ、里山の自然を守る>	6～3月
水と緑の子ども冒険クラブ <雑木林へ虫たちに会いに行こう>	7月
竹馬・竹とんぼ・水鉄砲づくり	8月
地域を知る実践講座	9～11月
幼い子のいる女性のための教室 <子どもが幼い時期を楽しむために> ..	9～3月
充実した後半生のために	9～2月
初級盆栽講座	1～3月
社会問題講座 <親の知らない子どもの世界>	1～3月
ピラティスマットエクササイズ	1～3月
国際関係講座 <キリスト教文化と国際関係>	11月
国際関係講座 <地球温暖化と国際関係>	2～3月
公民館を考える講座	2月
シネマクラブ上映会 <阿弥陀堂だより 他>	偶数月
シネマサロン <黒澤明の脚本 他>	奇数月
地域で平和について考える集い <住民自治のまちづくり>	4月
ふれあい散策 <芝桜の丘 他>	4・11・3月
もとまち美術散歩 <江戸東京博物館 他>	7・1月
もとまち防災教室	8・2月
学習会 <団塊の世代と地域のかかわり>	9月
ふれあいまつり・もとまち	10月

2007（平成19）年度

無農薬で野菜を作る講座	4～3月
水と緑の講座 <山仕事を楽しみ、ハケと共に生きる>	6～3月
初心者料理で地域の仲間作り	9～11月
水と緑のこども冒険クラブ <雑木林でカブト虫たちと遊ぼう！>	6・7月
竹細工教室	8・9月
幼い子のいる親のための教室 <子どもの育ちを考える>	9～3月
高齢者関係講座 <心穏やかに楽しく暮らす>	11～3月
国際関係講座 <エネルギー問題と国際関係>	11～12月
社会問題講座 <情報社会に生きる私たち>	1～3月
シネマクラブ上映会 <三池 隠し剣鬼の爪 他>	偶数月

シネマサロン	5・7・11・1・3月
地域で平和について考える集い <今、主権者として考える>	5月
ふれあい散策<奥多摩の紅葉を楽しむ>	11月
もとまち美術散歩<江戸東京たてもの園>	3月
地域会議	4~3月
ふれあいまつり・もとまち	10月
もとまちファミリー運動会	12月
東京学芸大学生による公民館での事業	7・2月
けやきの広場 <五公民館主催>	11月

2008（平成20）年度

無農薬で野菜を作る講座	4~3月
水と緑の講座 <アウトドアを楽しみ、ハケの自然を守る>	6~3月
家族を考える講座<かけがえのない人のために>	6~7月
水と緑のこども冒険クラブ <昆虫発見教室>	6・7月
家族の老いについて考える講座	9~11月
初級竹細工教室	9月
幼い子のいる親のための教室 <地域で子育て仲間をつくろう>	9~3月
国際経済講座 <世界の動向と日本>	10~11月
季節の簡単手作りお菓子	12~3月
男声合唱講座<歌でつなぐ地域の輪>	1~3月
公民館を考える講座	3月
シネマクラブ上映会 <博士の愛した数式 あかね空 ヒロシマ・ナガサキ 幸せのちから 東京タワー>	4・6・8・12・2月
シネマサロン	5・7・11・1・3月
地域で平和について考える集い<地域を子どもとおとなの「共育ち」の場に>	5月
ふれあい散策<都電ぶらり旅 天文台を見学する>	6・10月
もとまち美術散歩<国立新美術館>	2月
防災講座	2月
ふれあいまつり・もとまち	10月
もとまち公民館開館30周年記念事業	10・3月
地域会議	4~3月
第2回もとまちファミリー運動会	11月
私とふるさと国分寺 Part2 <もとまちめっけ！>	3月

(2) 共催事業<地域で平和について考える集い>開催一覧

回	開催年月	テーマ
1	1979年11月	「ガラスのうさぎ」と私 高木敏子（「ガラスのうさぎ」著者）
2	1981年2月	樫山文枝さんと語り合おう 赤井明（プロデューサー）/樫山文枝（女優）
3	1982年2月	地域のみなさんと平和を語り合う集い 小田 実
4	1983年3月	国外から日本を見れば～国際情勢の判断を自分でするために 吉良秀通（ネパール、インドネシアなどの大使歴任）
5	1984年3月	私たちのいま・これから ～女の歴史をとおして考える もろさわようこ（女性史研究家）
6	1985年3月	第三世界と私たちの生活 西川 潤（早稲田大学教授）
7	1986年3月	女性特派員の目でとらえた アジアから見た日本の平和 松井やより（朝日新聞社）
8	1987年2月	平和への願い ～今日の日から 関屋綾子（元日本YMCA会長）
9	1988年3月	国際化と東京問題 宮本憲一（大阪市立大学教授）
10	1989年3月	日本を見直す 安江良介（岩波書店・「世界」元編集長）
11	1990年2月	現代における平和憲法の意義について 杉原泰雄（一橋大学教授）
12	1991年3月	いま、なぜスウェーデンか～一人ひとりを大切にする社会をめざして ヤンソン柳沢由実子（フリージャーナリスト）
13	1992年4月	ダグラス・ラミス氏が語る 日本人の平和観 C・ダグラス・ラミス（津田塾大学）
14	1993年4月	戦後精神史と現代社会 ―国際社会に生きる日本 田中 浩（大東文化大学）
15	1994年4月	暮らしの中の憲法 一人ひとりが大切にされる社会を 浜林正夫（八千代国際大学）
16	1995年4月	「じんけんってなんだ？」 ～人権を “からだ化” するために～ 今野敏彦（東海大学）

回	開催年月	テーマ
17	1996年4月	憲法50年目の節目に～戦後史を振り返る 色川大吉（歴史学者）
18	1997年4月	21世紀への遺産 ～大人と子ども・人と自然かかわり合いの知恵を求めて 大田 堯（東京大学名誉教授）
19	1998年4月	私たちの生命と先端医療 ～現代医学が問われる人権 金城清子（津田塾大学・弁護士）
20	1999年4月	21世紀を託す子どものために ～家庭や地域はどうあるべきか 堀尾輝久（中央大学）
21	2000年4月	憲法改正問題を考える～限界にきたのは見えない憲法 棟居快行（成城大学）
22	2001年4月	I T革命の光と影 橋本典明（城山総合法律事務所顧問）
23	2002年4月	21世紀 日本の再生？ 政治経済のゆくえ 加藤哲郎（一橋大学教授）
24	2003年4月	21世紀 日本の再生？ Part II 激動する世界の中で 加藤哲郎（一橋大学教授）
25	2004年4月	教育の再生はそこからしか始まらない 坪井節子（弁護士）
26	2005年5月	世界情勢と日本の進路 国際社会の中で生きる日本国憲法 浅井基文（広島市立大学広島平和研究所所長）
27	2006年6月	住民自治のまちづくり 武居秀樹（都留文科大学）
28	2007年5月	今、主権者として考える教育基本法改定後の状況と憲法のゆくえ 三宅晶子（千葉大学）
29	2008年5月	地域を子どもとおとなの「共育ち」の場に 島田修一（社会教育・生涯学習研究所）

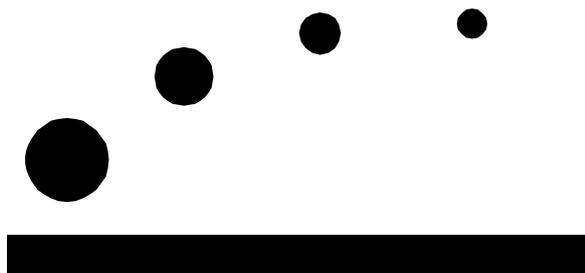
※毎回の記録冊子が公民館にあります。

(3) 開館30周年記念事業 実行委員会の記録

実行委員会	年 月	主 な 内 容
第1回	2007.12	スケジュール 記念事業の内容
第2回	2008.1	実施日・内容検討
第3回	2008.2	実行委員会体制 ①記念行事 ②記念誌 の二部制
第4回	2008.3	二部会の内容報告・確認
第5回	2008.4	記念事業の基本と記念誌の内容を確認
第6回	2008.5	記念事業の内容合意
第7回	2008.6	記念誌の内容確認 執筆依頼者決定
第8回	2008.7	記念行事(座談会)の内容検討
第9回	2008.9	記念行事の最終確認 開館記念パーティーについて
開館記念行事	10月18日	式典・座談会「わたしとふるさと国分寺市～公民館を核として」
第10回	2008.10	座談会の反省会
第11回	2008.11	30周年記念パーティーについて 呼びかけの範囲
第12回	2008.12	30周年記念パーティーについて 内容
第13回	2009.2	記念誌原稿確認 パーティーの内容
開館記念 パーティー	3月8日	記念誌『30にして立つ』の完成を祝って
第14回	3月25日	記念事業全体反省会

開館記念行事チラシ





V 資料

1. 公民館の体制をめぐって
2. もとまち公民館関連資料

1. 公民館の体制をめぐって

(1) 公民館体制検討委員会

公民館館長・職員で構成する内部検討委員会で教育長に報告

第1次公民館体制検討委員会（平成10年2月～11年3月）

〔検討事項〕

1. 公民館運営審議会のあり方について
2. 公民館保育室「自主グループ保育」のあり方について
3. 保育室開放について

第2次公民館体制検討委員会（平成12年4月～13年3月）

〔検討事項〕

1. 月曜開館及び職員の勤務体制について
2. 公民館関係条例の整備について
3. 印刷機提供について

第3次公民館体制検討委員会（平成13年4月～14年3月）

〔検討事項〕

1. 月曜日開館について
2. 公民館使用条例等の改正について
3. 光公民館等昼休み窓口について

第4次公民館体制検討委員会（平成14年5月～15年3月）

〔検討事項〕

「国分寺市の今後の公民館体制を考える～館長兼務問題を中心に～」

1. 地区独立館体制の維持
2. 専任課長職館長の配置

注：14年4月、組織改正により、教育委員会の「社会教育部」「学校教育部」を「教育部」に一本化した。

第5次公民館体制検討委員会（平成15年10月～16年11月）

〔検討事項〕

館長問題について

注：15年12月教育委員会定例会で「行政改革における公民館職員体制（館長兼任問題）について」をまとめ、「館長兼任は認められない」との結論を出した。

(2) 国分寺市立公民館のあり方を考えるワークショップ（平成17年11月～18年9月）

〔検討事項〕

1. 公民館運営審議会の各館設置の課題
2. 館長の管理職配置の課題
3. 専門職員の長期在職等の課題

〔解説〕

設置要綱により、公募の市民28名が参加。互選により座長・副座長を選出し、全体会議を9回開催した。同時に、参加した28名が、上記の課題別に3グループに分かれ、協議を重ね、会議状況と合意点を全体会に報告し全員討議に付した。

1 グループ…指摘課題に加え「将来の望むべきあり方（管理運営を地域市民による“公民館委員会”のような組織に移行する）案」が盛込まれ、今後5年を目途に継続して検討すべきである、としている。館長の管理職配置は必要とする多数意見に対し、行政改革対応を考慮して、管理職権限を持つ者を視野におくべきとの根強い意見もあり、両論併記された。

2 グループ…現行の管理職館長が望ましいが、現在の館長と同等の権限を持つ者を館長としておき、公民館の運営に当たることも視野に入れておくべき、という意見も出された。

3 グループ…職員には市民とのコミュニケーションが図れる人が望ましい。職員の研修の必要性と、同一館に最低5年の在職を求めた。嘱託職員の正職員化を求めた。

※これを受けて、国分寺市教育委員会は、18年12月26日の教育委員会で以下のような決定をし、平成19年1月24日付けで、ワークショップのメンバーに対して「教育委員会の基本的な考え方」を示した。

(3) 「公民館のあり方について」の教育委員会の基本的考え方

国分寺市教育委員会は、「国分寺市立公民館のあり方を考えるワークショップ」からの報告書及び機構改革検討委員会からの中間報告を踏まえ、公民館のあり方について次のように決定する。

①公民館運営審議会の各館設置の課題について

現在の各館配置を継続する。

国分寺市立公民館の大きな特徴である地区独立館方式を維持するためには、公民館運営審議会は必要な条件であり、各館に配置することが最も望ましいあり方である。

なお、報告書で提案されている「地域市民による公民館委員会のような組織」への移行の可能性について検討し、公民館が基本理念としている市民主体の運営の実現に努めるべきである。

②館長の管理職配置の課題について

将来的には地域住民または公民館運営経験者等による館長を置くことを目標にするが、それまでの間は係長職による館長を配置する。

このための条件として、現在の館長権限（国分寺市教育委員会事務決裁規程別表 2）をそのまま委譲すること、また、議会对策、5 館相互調整、公民館職員人事管理等の業務遂行のために教育委員会事務局の組織を（次長制度的なものに）改めること、及び、機構改革検討委員会中間報告の中で提案されている「公の施設全般にわたる維持管理部門の設置」の早期実現を要望する。

③専門職員の長期在職等の課題について

今後とも、公民館職員の専門性に配慮した適正な人事配置に努力する。

公民館担当職員としての採用がなくなった現在、いわゆる専門職としての新たな採用は不可能である。しかし、報告書でも述べられているように公民館として期待される機能を果たすためには高い専門性と旺盛な使命感、情熱をもった職員を配置することが重要な条件であるといえる。一方、公民館も市組織機構のひとつであり、館の円滑な運営、市政全体への影響力を考えると、公民館職員が市行政に関する知識と経験を持つことの必要性についても否定できない。以上のような視点を踏まえ、今後とも適正配置に努力する。

（4）国分寺市公民館使用条例等検討委員会（19年12月～20年6月）

〔検討事項〕

「市民にとって、より利用しやすく、より開かれた公民館」にするために

1. 営利団体及び宗教団体への貸し出しについて
2. 国分寺市公民館使用料金の取り扱いについて
3. 施行規則の制定について

〔解説〕

検討委員会は、各公民館運営審議会委員 5 人、社会教育委員 2 人、公民館長 5 人で構成し、内容によって参考人として関係課の職員も出席し、6 回の検討委員会と、学習会、意見交換会、公民館運営審議会委員への報告会を開催し、20 年 6 月 30 日に報告書をまとめ、教育委員会に報告した。

注：この報告書に基づき、公民館条例改正にむけて、事務局で準備・調整をしていて、平成 20 年 3 月現在まだ改正されていない。

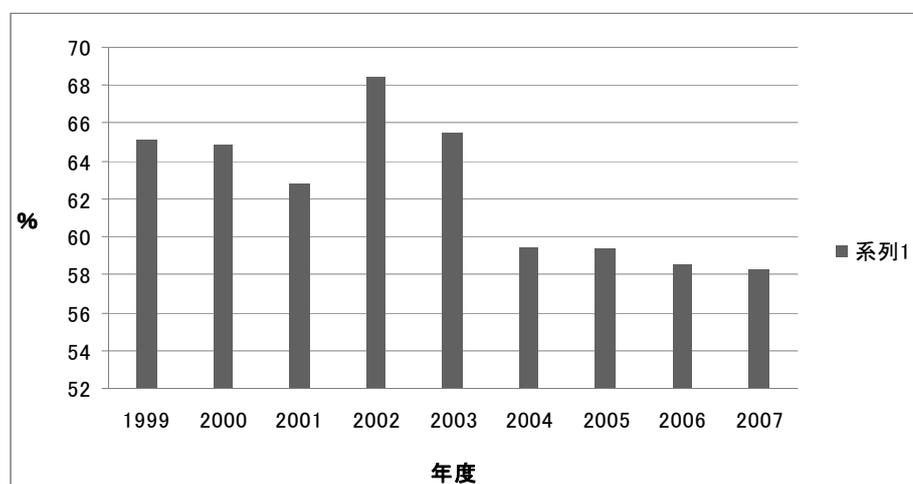
各報告書はもとまち公民館にあります。

2. もとまち公民館関連資料

(1) もとまち公民館利用状況

年度	項目	開館 日数 (日)	利用 団体数 (件)	利用 件数 (件)	利用 者数 (人)	延 利用者数 (人)	利用率 (%)	備考
1999	平成 11	296	263	2,901	5,997	35,470	65.1	
2000	平成 12	294	263	2,971	4,136	27,112	64.9	もとまち地域センター 開館
2001	平成 13	295	247	2,781	3,065	24,731	62.8	
2002	平成 14	328	226	3,369	2,572	19,245	68.5	条例改正により、第3以 外の月曜日開館
2003	平成 15	333	310	3,274	3,417	34,023	65.5	
2004	平成 16	332	251	2,964	4,778	35,486	59.5	
2005	平成 17	333	255	3,167	4,998	35,727	59.4	
2006	平成 18	332	236	2,917	6,427	40,197	58.6	さわやかプラザもとま ち開館
2007	平成 19	331	227	2,848	6,274	33,722	58.3	
2008	平成 20							

参考：国分寺市「事務報告書」



(2) もとまち公民館予算

	科 目	説 明	1999年	2000年	2001年	2002年
運 営 審 議 会 経 費	報 酬	委員報酬	684	684	599	599
	報 償 費	研修講師料	25	25	25	25
	旅 費	研修旅費等	71	82	45	45
	需 用 費	消耗品等	5			
	役 務 費	通信費等	11	10	10	10
	負担金及び交付金	大会参加費等	12	16	11	11
	計		808	817	690	690
公 民 館 事 業 経 費	賃 金	保育者賃金	1,182	1,182	1,182	1,182
	報 償 費	講座等講師料	1,700	1,650	1,650	1,650
	旅 費	職員旅費		27		
	需 用 費	消耗品、印刷費等	640	463	443	672
	役 務 費	通信運搬・保険料	120	115	115	125
	委 託 料	機器保守委託料				
	使用料及び賃借料	映画フィルム・印刷機等借上	629	599	609	616
	工 事 請 負 費					
	備 品 購 入 費		101	142		86
	負担金及び交付金	大会参加費	13	9	5	5
	計		4,385	4,187	4,004	4,336
維 持 管 理 経 費	賃 金	管理人賃金	2,344	2,353	2,254	2,519
	需 用 費	消耗品・修繕費等	5,670	5,589	6,166	5,621
	役 務 費	電話・ピア/調律等	325	368	390	349
	委 託 料	清掃等施設維持管理	6,847	9,062	8,800	7,092
	使用料及び賃借料	消臭剤	191	122	122	122
	工 事 請 負 費	空調設備改修工事			28,349	25,500
	備 品 購 入 費					
	公 課 費	自動車重量税	10		9	
計		15,387	17,494	46,090	41,203	
合 計			20,580	22,498	50,784	46,229

(単位 千円)

2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	科 目	
599	599	599	599	599	599	報 酬	運 營 審 議 会 經 費
25	25	25	25	25	26	報 償 費	
25	48	39	36	36	33	旅 費	
						需 用 費	
10	10	10	3	3	3	役 務 費	
4	11	11	11	11	7	負担金及び交付金	
663	693	684	674	674	668	計	
1,268	1,225	1,225	1,225	1,225	1,224	賃 金	公 民 館 事 業 經 費
1,650	1,650	1,650	1,650	1,775	1,768	報 償 費	
						旅 費	
571	556	598	638	732	732	需 用 費	
121	122	122	122	214	203	役 務 費	
105	105					委 託 料	
601	647	647	665	691	691	使用料及び賃借料	
						工 事 請 負 費	
		143	42	114		備 品 購 入 費	
4	5	12	5	5	3	負担金及び交付金	
4,320	4,310	4,397	4,347	4,756	4,621	計	
2,566	2,580	2,580	2,579	2,579	2,579	賃 金	維 持 管 理 經 費
5,368	5,160	4,838	4,449	4,625	4,968	需 用 費	
332	308	342	254	279	341	役 務 費	
6,802	6,793	6,725	6,642	5,657	7,155	委 託 料	
121	121	121	121	121		使用料及び賃借料	
						工 事 請 負 費	
					800	備 品 購 入 費	
9		9		9	9	公 課 費	
15,198	14,962	14,615	14,045	13,270	15,852	計	
20,181	19,965	19,696	19,066	18,700	21,141	合 計	

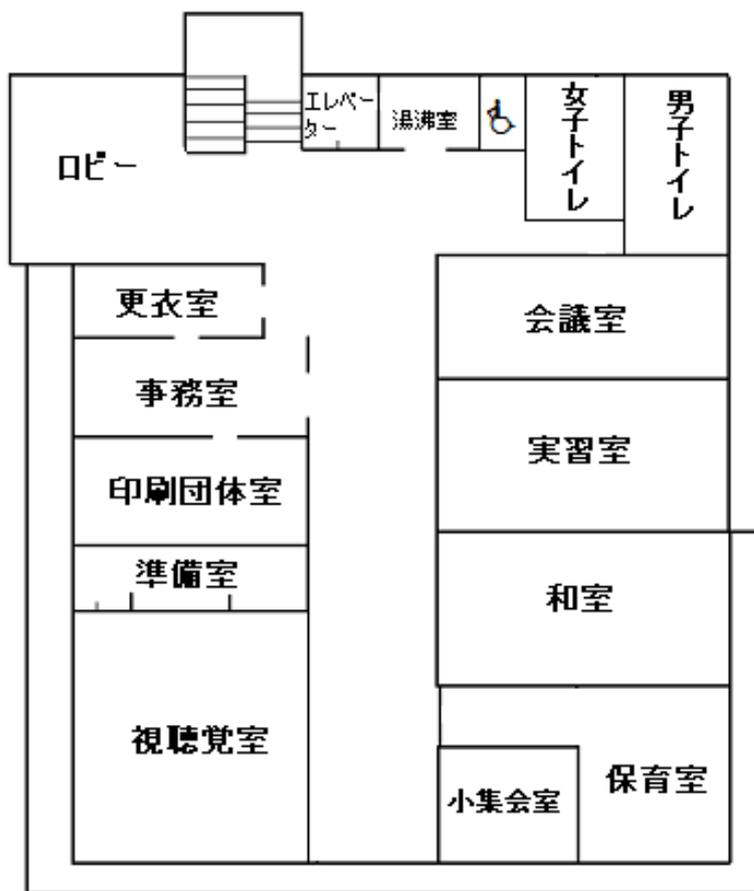
(3) 建物・備品修繕等の記録

年度	内容	数	場所	業者	金額 (円)	備考
1999 (H11)	備品購入費 (予算)				101,000	
2000 (H12)	備品購入費 (予算)				142,000	
2001 (H13)	備品購入費 (予算)				0	
	空調設備改修 (予算)				28,349,000	7月工事
2002 (H14)	空調設備改修 (予算)				25,500,000	
	備品購入費 (予算)				86,000	
	横断幕修繕	1式	公民館前路上	立川徽章	56,000	
	機械室ドア修繕	1式		タツミ	299,250	
	ふれあいまつり横断幕	1式		立川徽章	90,300	
	保育室家具修繕	1式		タツミ	141,750	
	ロビーチェア修繕	1式		アイチ	239,925	
	外灯修繕	1式		協立電気	124,950	
	昼替え	1式		大川豊店	137,812	
2003 (H15)	屋外照明取付	1式		協立電気	63,000	
	花壇修繕	1式		永春園	281,400	
	農地補修	1式		永春園	199,500	
	16ミリ映写機購入	1	視聴覚室	エイキ	299,985	
2004 (H16)	漏電ブレーカー取付	1式			187,950	
	案内表示板修繕	1		西都興業	136,500	
	チャイルドシート設置	1	だれでもトイレ	ユーコー	161,700	
2005 (H17)	ガスオープン	1	実習室	サカウエ	92,137	備品費
	駐輪場修繕	1式	敷地内	タツミ建設	181,125	
	折りたたみいす	30	視聴覚室	アイチ	239,400	
	ロビー用いす張替え	8	2階ロビー	アイチ		
	講義台用いす	1	視聴覚室	アイチ		

年度	内容	数	場所	業者	金額 (円)	備考
2006 (H18)	DVDソフト	2	視聴覚室	トッカータ	37,768	備品費
	電気炊飯器購入	2	実習室	橘電気商会		
	ガステーブル取替え	1	給湯室	坂上		
	ガス警報機設置	1	給湯室	坂上		
	換気扇取替え	1	給湯室	橘電気商会		
	掲示板増設	2	階段踊場・1階	昭和事務機		
	ビデオプロジェクター	1	事務室	東通	180,600	
	16ミリ上映配線工事	1式	準備室	東通	133,140	
	正面自動ドア取替え	1式	公民館図書館 入り口	ナブコ	682,500	予備費充当
	パンフレットケース	2	事務室	昭和事務機	49,350	
	折りたたみイス	20	視聴覚室	アイチ	97,650	
	イス運搬用キャスター	2	視聴覚室	アイチ	51,450	
2007 (H19)	冷凍冷蔵庫	1	実習室	橘電気商会	101,430	備品費
	AED (体外式除細動器)	1	事務室	フクダ電子	0	寄贈
	ロビー壁面改修		黒板撤去 展示ボード	教育庶務課	0	
	古机処分	20		教育庶務課	0	
	駐輪場舗装			道路管理課	0	
	大型湯沸器	1		サカウエ	132,300	
	壁面照明設置	1式	2階ロビー	橘電気商会	80,046	
	非常用蓄電池	1式	取替え	三多摩電設	966,000	12月補正
	照明器具	4	視聴覚室取替え	飯沼電気	126,000	
	照明器具	8	視聴覚室取替え	飯沼電気	262,500	配当替
	照明器具	2	印刷室・会議室 取替え	飯沼電気	76,650	
2008 (H20)	軽自動車購入	1		村野自動車	712,950	備品費
	ベビーキープ設置	1	だれでもトイレ	ケーポイント	(79000円)	都補助金
	展示用パネル購入	10	廊下など	昭和事務機	24,800	
	長机修繕	4	視聴覚室	川勝商会	118,650	
	ICレコーダー	1	事務室	ケーポイント	12,800	
	折りたたみイス購入	25	視聴覚室	アイチ	153,300	
	イス運搬用キャスター	1	視聴覚室	アイチ		

(5) もとまち公民館施設案内

敷地面積	1,336.98	m ²	
建築規模	延べ	1,275.48	m ²
	2階	650.90	m ² (もとまち公民館)
	1階	624.58	m ² (公民館ロビー31 m ² ともとまち図書館)
竣工	1978 (昭和 53) 年 8 月		
建設費	192,100,000 円		
用地取得	1990 (平成 2) 年 2 月		
用地取得費	1,132,422,060 円		



公民館平面図

もとまち公民館 案内図



国分寺駅南口から ぶんバス「元町駐在所」下車徒歩2分

☪ もとまち公民館 30 周年記念事業実行委員会 ☪

実行委員長 廣田 廣

記念行事部会 荒田滋子

伊勢修喜

井上四郎

永澤榮子

原 俊男

編集部会 小峰義夫

清水真理子

平井愛子

横倉 節

もとまち公民館職員

百瀬道子

深石和夫

佐藤 緑

編集 後記

開館 30 周年を迎え、方向性の定まらない国政と荒んだ世相の流れを変えるのは公民館での「学び合い」から！と願いをこめて、記念誌の編集に取り組みました。その矢先に世界同時不況の追打ちを受け、31 年目の'09 年からは一層の緊張を以てまちづくりに貢献する公民館を目指さねばと思います。 小峰義夫

記念誌作成に関わるなかで、たくさんの素敵な出会いと発見をさせていただき、ありがたい機会でした。住んでいるこの地域が、少し違って見えてきたように感じます。ただ、皆さまに頼りっぱなしの 1 年余となってしまう、感謝とともに反省しきりです。 清水真理子

10 周年、20 周年に続いて 30 周年誌にも関わることが出来たことを心から幸せに思います。公民館歴もさまざまな老若男女の利用者 4 名、ベテランと若い職員 2 名の絶妙な組み合わせの編集委員、たくさんのことを学び、本当に楽しい 1 年余でした。この 30 年誌とこの人の輪がまた私の宝物となって、前進していかれそうです。 平井愛子

もとまち公民館 30 周年記念誌のメンバーに入れていただき、この公民館をどれだけの方々が愛して下さっているのか分かりました。そして毎日お忙しい方にもかかわらず早く寄稿して下さいったことに感謝の思いです。また自分のつたない編集に温かくアドバイスをいただきありがとうございました。 横倉 節

早めに着手したつもりでしたが、時間切れ。もっと書いていただきたい方、盛り込みたい内容がありました。30 周年の節目の年に、再びもとまち公民館にいて、絶妙な編集部会のメンバーと記念誌編集に取り組めたことは本当に幸いでした。これが、次へのステップになることを願っています。

もとまち公民館長 百瀬道子

この記念誌に関わり、多くの時間と労力を惜しみなく使ってくださった皆様に感謝申し上げます。これからも、もとまち公民館は地域密着で成長していきたいと思ひます。

もとまち公民館職員 佐藤 緑

30 にして立つ

もとまち公民館 30 周年記念誌

編 集 国分寺市立もとまち公民館 30 周年記念誌編集部会

発 行 国分寺市立もとまち公民館

〒185-0022 東京都国分寺市東元町 2-3-13

Tel (042) 325-4221

E-mail motomati-kouminkan@city.kokubunji.tokyo.jp

発行日 2009(平成 21)年 3 月 8 日

国分寺市ホームページからご覧になれます <http://www.city.kokubunji.tokyo.jp>